

令和8年度 JA高岡

# 営農記録ノート

～農作業のあしあと～



地区名 \_\_\_\_\_

生産組合名 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

(あしあとをのこす人)

巻末の栽培管理記録簿は、出荷前に必ず  
JAへ提出しましょう。



# 目次

1. 重点事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
2. 水稻栽培ごよみ(JA米生産基準)
  - ・「コシヒカリ」の栽培ごよみ・・・・・・・・ P 2～3
  - ・「てんたかく」の栽培ごよみ・・・・・・・・ P 4～5
  - ・「てんこもり」の栽培ごよみ・・・・・・・・ P 6～7
  - ・「新大正糯」の栽培ごよみ・・・・・・・・ P 8～9
  - ・「直播コシヒカリ(鉄コティング)」の栽培ごよみ・・ P 10～11
3. JA高岡 施肥設計例・・・・・・・・・・ P 12～13
4. 主要農薬表・・・・・・・・・・・・・・・・ P 14
5. 農作業のあしあと
  - ・1月、2月 カレンダー・・・・・・・・・・ P 15
  - ・3月 土づくり編・・・・・・・・・・ P 16～17
  - ・4月 育苗編・・・・・・・・・・ P 18～21
  - ・5月 田植え・雑草防除編・・・・・・・・ P 22～27
  - ・6月 中干し編・・・・・・・・・・ P 28～29
  - ・7月 穂肥編・病害虫防除編(てんたかく)・・ P 30～33
  - ・8月 病害虫防除編(コシヒカリ)・水管理編・・ P 34～37
  - ・9月 秋作業編・・・・・・・・・・ P 38～41
  - ・10月 土づくり編・・・・・・・・・・ P 42～45
  - ・11月、12月 ハウスの雪害対策編・・ P 46～47
  - ・令和9年1月、2月 カレンダー・・・・・・・・ P 48
6. マメ知識①～③・・・・・・・・・・ P 49～50
7. 経営に合わせた継続的な生産調整の実施・・・・・・・・ P 51
  - ・大豆の栽培ごよみ・・・・・・・・ P 52～53
  - ・大麦の栽培ごよみ・・・・・・・・ P 54～55
8. マメ知識④～⑤・・・・・・・・・・ P 56
9. 栽培管理記録簿
  - ・栽培管理記録簿(記入例)・・・・・・・・ P 57～58
  - ・栽培管理記録簿(提出用)・・・・・・・・ 記入後JAへ提出

# 重点事項

- 高品質な高岡産米を目指し、うるち米1等比率90%以上
  - ・「営農記録ノート」を活用した基本技術の徹底
  
- 「安心・安全」な米づくり
  - ・ 富山県適正農業規範に基づくGAP及び生産履歴記帳の実施
  
- 元気な土づくり
  - ・ 堆肥・珪酸質資材の積極的な施用や地力増進作物の作付け
  
- 高温登熟のリスク低減
  - ・ 高温条件でも品質が安定している「てんたかく」「てんこもり」の作付け
  
- 適正な生育量への誘導
  - ・ 田植え時期に合わせた健苗育成のための育苗計画（播種から19日以内）
  - ・ 適正な田植え作業（植付深さ3cm程度、植付本数3~4本、70株/坪）
  - ・ 田植え後の浅水管理による初期茎数の確保
  - ・ 田植え後4週間での中干しの実施
  - ・ 中干し後の間断かん水の実施
  
- 病虫害防除の徹底
  - ・ 農薬使用基準の厳守と周辺作物や住宅地への飛散防止
  - ・ 病虫害の発生に合わせた適期防除
  - ・ 畦畔や麦跡・雑草地などの管理の徹底
  
- 稲体の活力維持
  - ・ 出穂前の葉色に応じた追加穂肥の施用
  - ・ 出穂後20日間の湛水管理
  - ・ 収穫5~7日前までの間断かん水
  
- 適期の刈取りと乾燥・調製の実施
  - ・ 気象状況に応じた適期の刈取りや、適切な乾燥で胴割米の発生防止
  - ・ 清掃・選別の徹底による異品種や異物混入の防止

# 「コシヒカリ」の栽培ごよみ

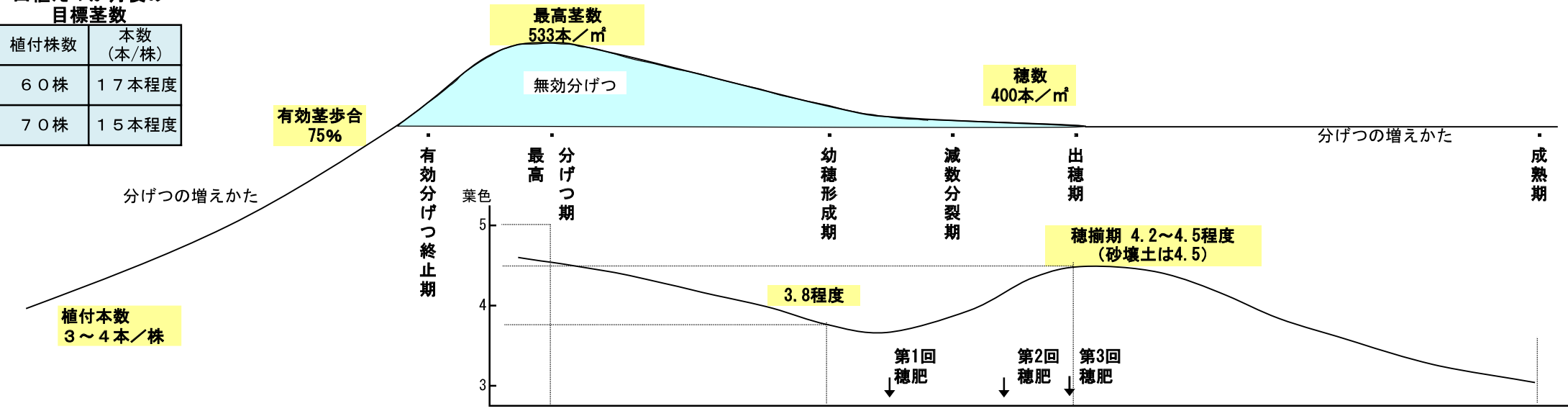
## 収量構成の目安

収量構成	目安
㎡当たり最高茎数 (本)	533
有効茎歩合 (%)	75
㎡当たり穂数 (本)	400
平均一穂粒数 (粒)	70
㎡当たり着粒数 (百粒)	280
登熟歩合 (%)	87
玄米千粒重 (g)	22.5

## 田植え1か月後の目標茎数

植付株数	本数 (本/株)
60株	17本程度
70株	15本程度

植付本数 3~4本/株



月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
草刈時期	★	★	★	★	★ 出穂	★ ←本田防除以降、収穫までは草刈りをしない→		
生育区分	育苗期	田植期 活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期 出穂23日前	穂ばらみ期 出穂10日前	登熟期	収穫期
水管理		やや深水	浅水管理 軽めの田干し	中干しの徹底 除草剤散布時は深水を保つ	間断かん水	幼穂形成期以降は飽水管理 (足跡の水が切れないように管理)	出穂から20日間は湛水状態を保つ	落水を急がない
栽培管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土づくり資材の散布</li> <li>・ ゆつくりと耕起し、作土 15 cm 以上を確保する</li> <li>・ 田面の均平をよくする</li> <li>・ 播種量は乾籾で一箱当たり 120 g 以下としてよい苗を作る</li> <li>・ 天候に合わせた温度管理を確実に行う</li> <li>・ 基肥量は地区基準量を守る</li> <li>・ 病害虫予防のため育苗ハウス外で散布する</li> <li>・ 育苗ハウスは育苗ハウスの外で散布する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田植機の株数設定は 70 株/坪 に設定して作業を行う</li> <li>・ 5月15日頃を中心に田植を行い荒天時の田植は避ける</li> <li>・ 一株の植付け本数は 3 ~ 4 本とし、3 cm 程度の深さに植える</li> <li>・ 全層施肥の場合は早期追肥を田植後7日以内に施用する</li> <li>・ 田植後3日間はやや深水として活着を早める</li> <li>・ 良質の茎を早く確保する</li> <li>・ 活着後は浅水管理とし、分けつの発生を促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 除草剤散布は適期に行い、散布後5日間は湛水状態を保つ</li> <li>・ 中干し(田植後4週間までに開始する)</li> <li>・ 田植後4週間までに溝掘りを行い、水のかん排水の効率化を図る</li> <li>・ 適正な中干しにより、根の活力を高めるとともに過剰分けつを抑制する</li> <li>・ 中干し後は間断かん水をくり返し土壌を固くする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 畦畔草刈りでカメムシ密度を下げる</li> <li>・ 幼穂形成期の葉色を 3.8 程度に誘導する</li> <li>・ 分施肥系の場合</li> <li>・ 幼穂形成期以降は飽水管理(足跡に水が切れないように管理する)</li> <li>・ 1回目穂肥は幼穂長 15 ~ 20 mm を確認してから慎重に行う</li> <li>・ 2回目穂肥は1回目の7日後に確実にを行う</li> <li>・ 分施肥系の場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 圃場全体に水が行きわたっているか確認する</li> <li>・ 湛水期間はこまめに水を入れ、田水温の上昇を防ぐ</li> <li>・ 穂揃期の葉色を 4.2 ~ 4.5 に誘導する</li> <li>・ 出穂から20日間は湛水状態を保つ</li> <li>・ 3回目穂肥は葉色に応じて出穂直前に行う</li> <li>・ 本田防除の徹底(適期防除の実施)</li> <li>・ 刈取り予定日の5 ~ 7日前まで間断かん水する</li> <li>・ フェーン時はかん水して、葉身の萎れを防ぐ</li> <li>・ 刈取り予定日の5 ~ 7日前まで間断かん水する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稲わらの腐熟を促進するため、秋起こしを行い、排水溝を設置する</li> <li>・ 土づくり肥料はそれぞれの基準量を確実に施用する</li> <li>・ 過乾燥による胴割米を発生させない</li> <li>・ 仕上水分 14.5 ~ 15.0 %</li> <li>・ 適期内に刈取り、刈り遅れのないように注意する</li> <li>・ 籾の黄化率 85 ~ 90 % 程度が刈取り適期</li> <li>・ 収穫前に必ずクサネムやヒエなどの雑草を抜き取る</li> <li>・ 刈取り予定日の5 ~ 7日前まで間断かん水する</li> </ul>		

# 「てんたかく」の栽培ごよみ

## 収量構成の目安

収量構成	目安
㎡当たり最高茎数 (本)	650
有効茎歩合 (%)	78
㎡当たり穂数 (本)	500
平均一穂粒数 (粒)	60
㎡当たり着粒数 (百粒)	300
登熟歩合 (%)	85
玄米千粒重 (g)	23.5

## 田植え1か月後の目標茎数

植付株数	本数 (本/株)
70株	18本程度

植付本数  
3~4本/株

最高茎数  
650本/㎡

穂数  
500本/㎡

有効茎歩合  
78%

無効分けつ

分けつの増えかた

葉色

5

4

3

最高

分けつ期

幼穂形成期

減数分裂期

出穂期

成熟期

有効分けつ終止期

4.0を下回らない

第1回穂肥

第2回穂肥

穂揃期 4.2~4.5程度

## 品種の特性

1. 成熟期は「コシヒカリ」より10~14日程度早い
2. 収量性は「コシヒカリ」並み~やや高い
3. 高温条件でも玄米品質が極めて高く、安定している
4. 食味は、タンパク含有量が低く粘りがある
5. いもち病には強いが、紋枯病・白葉枯病にやや弱い

月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
草刈時期	★		★		★				
生育区分	育苗期	活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期	収穫期
水管理	やや深水	浅水管理 軽めの田干し	中干しの徹底 除草剤散布時は深水を保つ	間断かん水	幼穂形成期以降は飽水管理 (足跡の水が切れないように管理)	出穂から20日間は湛水状態を保つ	落水を急がない		
栽培管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稲わらの腐熟を促進するため、秋起こしを行い、排水溝を設置する</li> <li>・ 土づくり肥料はそれぞれの基準量を確実に施用する</li> <li>・ 過乾燥による胴割米を発生させない</li> <li>・ 仕上水分 14.5 ~ 15.0 %</li> <li>・ 適期内に刈取り、刈り遅れのないように注意する</li> <li>・ 籾の黄化率 85 ~ 90 %程度が刈取り適期</li> <li>・ 収穫前に必ずクサネムやヒエなどの雑草を抜き取る</li> <li>・ フェーン時はかん水して、葉身の萎れを防ぐ</li> <li>・ 刈取り予定日の5 ~ 7日前まで間断かん水する</li> <li>・ 圃場全体に水が行きわたっているか確認する</li> <li>・ 湛水期間はこまめに水を入れ、田水温の上昇を防ぐ</li> <li>・ 出穂から20日間は湛水状態を保つ</li> <li>・ 本田防除の徹底(適期防除の実施)</li> <li>・ 2回目穂肥は1回目の10日後に確実にを行う</li> <li>・ 分施肥体系の場合</li> <li>・ 畦畔草刈りでカメムシ密度を下げる</li> <li>・ 1回目穂肥は幼穂長 1mm を確認してから行う</li> <li>・ 分施肥体系の場合</li> <li>・ 幼穂形成期以降は飽水管理(足跡に水が切れないように管理する)</li> <li>・ 幼穂形成期の葉色は 4.0 を下回らないようにする</li> <li>・ 中干し後は間断かん水をくり返し土壌を固くする</li> <li>・ 中干し(田植え後4週間を目安に開始する)</li> <li>・ 田植え後4週間までに溝掘りを行い、水のかん排水の効率化を図る</li> <li>・ 除草剤散布は適期に行い、散布後5日間は湛水状態を保つ</li> <li>・ 良質の茎を早く確保する</li> <li>・ 全層施肥の場合は早期追肥を田植え後7日以内に施用する</li> <li>・ 活着後は浅水管理とし、分けつの発生を促す</li> <li>・ 田植え後3日間はやや深水として活着を早める</li> <li>・ 一株の植付け本数は 3 ~ 4本とし、3cm程度の深さに植える</li> <li>・ 田植機の株数設定は 70 株/坪 に設定して作業を行う</li> <li>・ 育苗薬剤は育苗ハウスの外で散布する</li> <li>・ 病害虫予防のため育苗薬剤を行う</li> <li>・ 基肥量は地区基準量を守る</li> <li>・ 天候に合わせた温度管理を確実にを行う</li> <li>・ 播種量は乾籾で一箱当たり 120g以下としてよい苗を作る</li> <li>・ 田面の均平をよくする</li> <li>・ ゆっくりと耕起し、作土 15cm以上を確保する</li> <li>・ 土づくり資材の散布</li> </ul>								

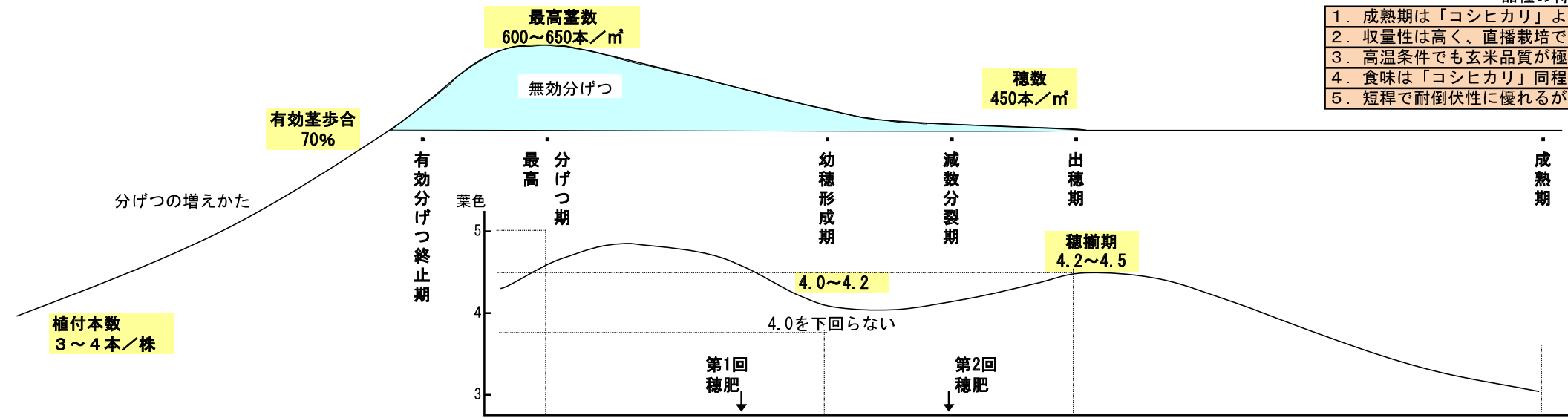
# 「てんこもり」の栽培ごよみ

## 収量構成の目安

収量構成	目安
㎡当たり最高茎数 (本)	600~650
有効茎歩合 (%)	70
㎡当たり穂数 (本)	450
平均一穂粒数 (粒)	70
㎡当たり着粒数 (百粒)	300~320
登熟歩合 (%)	85
玄米千粒重 (g)	22.5

## 品種の特性

1. 成熟期は「コシヒカリ」より7日程度遅い
2. 収量性は高く、直播栽培でも収量が安定している
3. 高温条件でも玄米品質が極めて高く、安定している
4. 食味は「コシヒカリ」同程度で美味しい
5. 短稈で耐倒伏性に優れるが、紋枯れ病にやや弱い



月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
草刈時期		★	★	★	★ 出穂	★ ←本田防除以降、収穫までは草刈りをしない→		
生育区分	育苗期	田植期 活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期 穂ばらみ期	出穂期 登熟期	収穫期	
水管理		やや深水	浅水管理 軽めの田干し	中干しの徹底	間断かん水	幼穂形成期以降は飽水管理 (足跡の水が切れないように管理)	出穂から20日間は湛水状態を保つ	落水を急がない
栽培管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 播種量は乾籾で一箱当たり 120g 以下としてよい苗を作る</li> <li>・ 田面の均平をよくする</li> <li>・ ゆっくりと耕起し、作土 15cm 以上を確保する</li> <li>・ <b>土づくり資材の散布</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 播種量は乾籾で一箱当たり 120g 以下としてよい苗を作る</li> <li>・ 田面の均平をよくする</li> <li>・ ゆっくりと耕起し、作土 15cm 以上を確保する</li> <li>・ <b>土づくり資材の散布</b></li> <li>・ 基肥量は地区基準量を守る</li> <li>・ 病害虫予防のため育苗ハウスを行う</li> <li>・ 育苗ハウスは育苗ハウスの外で散布する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一株の植付け本数は 3本とし、3cm程度の深さに植える</li> <li>・ 田植機の株数設定は 60 5 70 株/坪 に設定して作業を行う</li> <li>・ 田植後3日間はやや深水として活着を早める</li> <li>・ 全層施肥の場合は早期追肥を田植後7日以内に施用する</li> <li>・ 除草剤散布は適期に行い、散布後5日間は湛水状態を保つ</li> <li>・ <b>良質の茎を早く確保する</b></li> <li>・ 活着後は浅水管理とし、分けつの発生を促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中干し後は間断かん水をくり返し土壌を固くする</li> <li>・ 中干し (田植後4週間を目安に開始する)</li> <li>・ 適正な中干しにより、根の活力を高めるとともに過剰分けつを抑制する</li> <li>・ 田植後4週間までに溝掘りを行い、水のかん排水の効率化を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼穂形成期以降は飽水管理 (足跡に水が切れないように管理する)</li> <li>・ 幼穂形成期の葉色は 4.0 を下回らないようにする</li> <li>・ 畦畔草刈りでカメムシ密度を下げる</li> <li>・ 1回目穂肥は幼穂長 1mm を確認してから行う</li> <li>・ 分施肥系の場合</li> <li>・ 2回目穂肥は1回目の10日後に確実にを行う</li> <li>・ 分施肥系の場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 圃場全体に水が行きわたっているか確認する</li> <li>・ 湛水期間はこまめに水を入れ、田水温の上昇を防ぐ</li> <li>・ 穂揃期の葉色を 4.2 5 4.5 に誘導する</li> <li>・ 出穂から20日間は湛水状態を保つ</li> <li>・ 本田防除の徹底 (適期防除の実施)</li> <li>・ 収穫前に必ずクサネムやヒエなどの雑草を抜き取る</li> <li>・ フェーン時はかん水して、葉身の萎れを防ぐ</li> <li>・ 刈取り予定日の5 7日前まで間断かん水する</li> <li>・ 過乾燥による胴割米を発生させない</li> <li>・ 仕上水分 14.5 15.0 %</li> <li>・ 土づくり資材の散布</li> <li>・ 稲わらの腐熟を促進するため、秋起こしを行い、排水溝を設置する</li> </ul>		

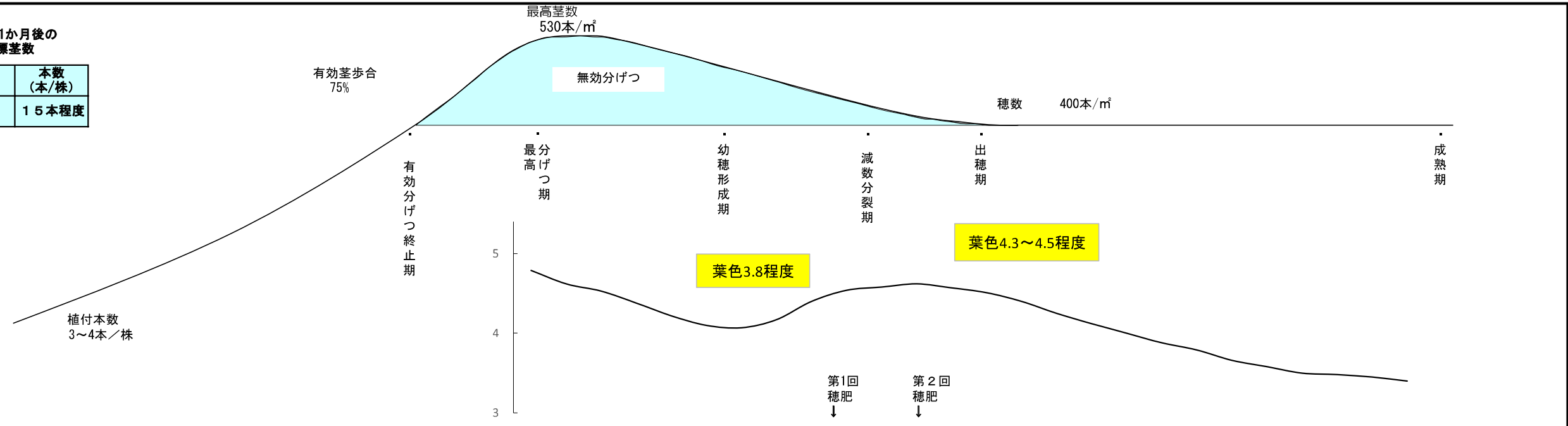
# 「新大正糯」の栽培ごよみ

## 収量構成の目安

収量構成	目安
㎡当り最高莖数(本)	530
有効莖歩合(%)	75
㎡当り穂数(本)	400
平均一穂粒数(粒)	70
㎡当り着粒数(百粒)	280
登熟歩合(%)	80
玄米千粒重(g)	21.5

田植え1か月後の  
目標莖数

植付株数	本数(本/株)
70株	15本程度



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
草刈時期		★	★	★	★	★	★		
生育区分		育苗期	田植期 活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期 出穂23日前	穂ばらみ期 出穂10日前	登熟期	収穫期
管理作業		やや深水(4~5cm)	浅水管理(2~3cm)	中干しの徹底	間断かん水	幼穂形成期以降は飽水管理 (足跡の水が切れないように管理)	出穂から20日間は湛水状態を保つ	落水を急がない	
栽培管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稲わらの腐熟を促進するため、秋起しを行い、排水溝を設置する</li> <li>・ 土づくり肥料はそれぞれの基準量を確実に施用する</li> <li>・ 土づくりに努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 穂発芽しやすいので倒伏・刈遅れに注意</li> <li>・ 適期内に刈取り、刈遅れの無いように注意する</li> <li>・ 収穫前に必ずクサネムやヒエなどの雑草を抜き取る</li> <li>・ フェーン時はかん水して、葉身の萎れを防ぐ</li> <li>・ 刈取り予定日の5~7日前まで間断かん水する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 圃場全体に水が行きわたっているか確認する</li> <li>・ 湛水期間はこまめに水を入れ、田水温の上昇を防ぐ</li> <li>・ 穂揃期の葉色を 4.2 ~ 4.5 に誘導する</li> <li>・ 出穂から 20 日間は湛水状態を保つ</li> <li>・ 2 回目穂肥は 1 回目の 7 日後に確実に行う</li> <li>・ 本田防除の徹底(適期防除の実施)</li> <li>・ 1 回目穂肥は幼穂長 10 ~ 20 mm を確認してから慎重に行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼穂形成期の葉色を 3.8 程度に誘導する</li> <li>・ 幼穂形成期以降は飽水管理(足跡に水が切れないように管理する)</li> <li>・ 畦畔草刈りでカメムシ密度を下げる</li> <li>・ 中干し後は間断かん水を繰り返し土壌を固くする</li> <li>・ 中干し(田植え後4週間までに開始する)</li> <li>・ 適正な中干しにより、根の活力を高めるとともに過剰分げつを抑制する</li> <li>・ 田植え後4週間までに溝堀利を行い、水のかん排水の効率化を図る</li> <li>・ 除草剤散布は適期に行い、散布後5日間は湛水状態を保つ</li> <li>・ 軽めの田干し</li> <li>・ 除草剤散布時は深水を保つ</li> <li>・ 良質の茎を早く確保する</li> <li>・ 活着後は浅水管理とし、分げつの発生を促す</li> <li>・ 全層施肥の場合は早期追肥を田植え7日以内に施用する</li> <li>・ 田植え後3日間はやや深水として活着を早める</li> <li>・ 一株の植付け本数は 3 ~ 4 本とし、3 cm 程度の深さに植える</li> <li>・ 5月 10日頃を中心に田植を行い荒天時の田植は避ける</li> <li>・ 田植機の株数設定は 70 株/坪 に設定して作業を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天候に合わせた温度管理を確実に行う</li> <li>・ 播種量は乾籾で一箱当たり 120 g 以下としてよい苗を作る</li> <li>・ 田面の均平をよくする</li> <li>・ ゆっくりと耕起し、作土 15 cm 以上を確保する</li> <li>・ 土づくり資材の散布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育苗ハウスの外で散布する</li> <li>・ 病害虫予防のため育苗作業を行う</li> </ul>			

# 「直播コシヒカリ（鉄コーティング）」の栽培ごよみ

## 収量構成の目安

収量構成	目安
㎡当たり最高莖数 (本)	550~600
有効莖歩合 (%)	60~65
㎡当たり穂数 (本)	360
平均一穂粒数 (粒)	70
㎡当たり着粒数 (百粒)	250
登熟歩合 (%)	85
玄米千粒重 (g)	23.0

## 施肥設計 (例)

土壌区分		鉄コート直播コシヒカリ (22-5-20)	
		側条施肥による施用量	
沖積	砂壤土	27	32
	壤土	27	32
	粘質土	18	22

## 雑草防除体系

**ペルーガ1キロ粒剤**

- 散布量 1kg/10a
- 播種同時、散布機で施用
- ノビエ3.0葉期まで
- 収穫90日前まで

**アクシズMX1キロ粒剤**

- 散布量 1kg/10a
- 稲1.0葉期を確認後に湛水散布
- ノビエ4.0葉期まで
- 収穫45日前まで

【使用時期の目安】 中干後~ノビエ4.0葉期

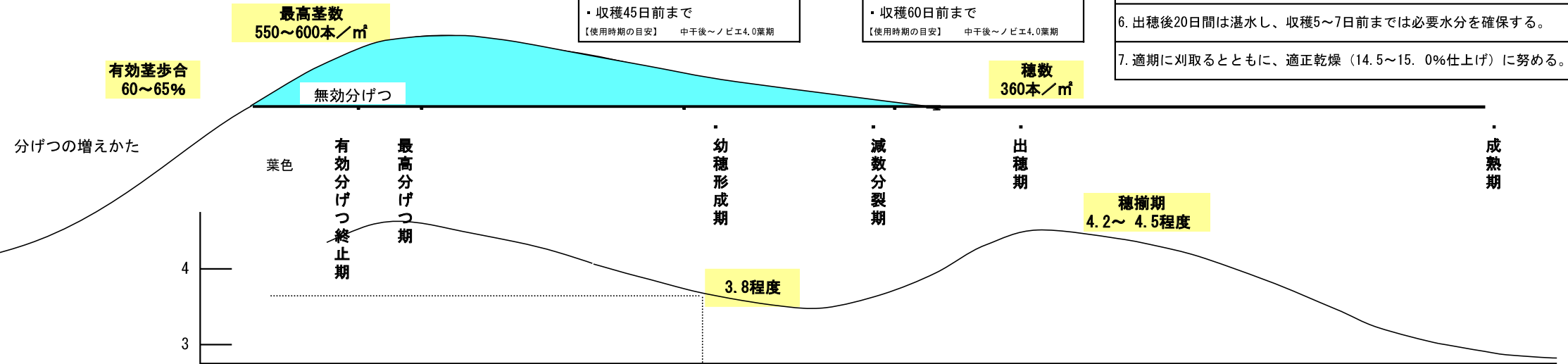
**レプラスジャンボ**

- 散布量 10個(1袋)/10a
- 稲1.0葉期を確認後に湛水散布
- ノビエ4.0葉期まで
- 収穫60日前まで

【使用時期の目安】 中干後~ノビエ4.0葉期

## 栽培のポイント

- 均一な苗立ちを確保するため、ほ場の均平に努める。
- 播種量は2.5~3.0kg/10aとし、㎡当たり60本程度の苗立ちを確保する。
- 適正な中干しにより根の活力を高めるとともに、過剰分けつを防ぐ。
- 幼穂形成期の葉色を3.8に誘導し、以降は飽水管理で葉色低下を防ぐ。
- いもち病の発生に注意し、防除を徹底する。
- 出穂後20日間は湛水し、収穫5~7日前までは必要水分を確保する。
- 適期に刈取るとともに、適正乾燥 (14.5~15.0%仕上げ) に努める。



月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
草刈時期		★	★	★	★	★			
生育区分		播種期	出芽・苗立期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	登熟期	収穫期
水管理		湛水管理	飽水管理 (本葉1葉期)	浅水管理	中干し	間断かん水	飽水管理 (足跡の水が切れないように管理する)	出穂から20日間は湛水状態を保つ	間断かん水 (落水を急がないように)

栽培管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸種積算 60度の種子に鉄コーティングする</li> <li>種子は乾粒で 10アル当たり 2.5 ~ 3.0 kgとする</li> <li>出芽揃いを良くするため、ほ場の均平に努める</li> <li>基本窒素量は移植より10アル当たり 0.5 ~ 1.0 kg減肥する</li> <li>施肥溝が残る程度のほ場の硬さで播種する</li> <li>播種同時または直後に除草剤を散布する</li> <li>播種後5~7日間は湛水管理を行う</li> <li>除草効果を維持するため、出芽が確認されるまで足跡の水が切れないうちに飽水管理を行う</li> <li>イネ 1.5 ~ 2.0 葉期に2回目の除草剤を散布する</li> <li>6月上旬に溝を掘り、かん排水の効率化に努める</li> <li>6月中旬頃、葉いもちの予防剤を散布する</li> <li>中干しにより、根の活力を高めるとともに、過剰分けつを抑制する</li> <li>中干し後は、間断かん水を行う</li> <li>幼穂形成期の葉色は 3.8 程度に誘導する</li> <li>幼穂形成期以降は飽水管理を行う</li> <li>穂いもちの出穂直前・穂揃期の2回防除を確実に</li> <li>カメムシ類の穂揃期防除を確実に</li> <li>穂揃期から20日間は湛水状態を保つ</li> <li>穂揃期の葉色は 4.2 ~ 4.5 に誘導する</li> <li>刈取り予定日の5~7日前までかん水する</li> <li>フェーン時は事前かん水して、品質低下を防ぐ</li> <li>籾の黄化率 85 ~ 90%程度で適期に刈取る</li> <li>仕上水分 14.5 ~ 15.0 %</li> <li>1.9 mmのふるいで選別する</li> </ul>
-----------	--

# J A 高岡 施肥設計例 (J A 米生産基準)

単位 : kg / 10a

品 種 名			てんたかく (5月5日前後植え基準)							基	
施肥時期			基 肥		早期追肥	中間追肥	穂 肥		代かき前	田	
			代かき前	田植え時	田植後7日以内	6月15日~20日	出穂25日前	出穂15日前			
施肥体系	設計番号	肥料名 土壤区分	基肥555	LP555-1号	エコ早生専用	基肥555	追肥3号 (※注カリ入り土づくり肥料を撒かない圃場) エスアイ加里らくだ		基肥555	LP555-1号	
			全層施肥	1	砂壤土	28	—	—	11	0 (15)	10
2	壤土 (洪積含む)	24		—	—	11	0 (15)	10	12	16	—
3	粘質土	20		—	—	11	0 (15)	10	10	12	—
側条施肥	4	砂壤土	—	32	—	—	0 (15)	10	15	—	22
	5	壤土 (洪積含む)	—	28	—	—	0 (15)	10	12	—	18
	6	粘質土	—	24	—	—	0 (15)	10	10	—	13
側条一発基肥施肥	7	砂壤土	—	—	40	—	0 (15)	—	—	—	—
	8	沖積壤土	—	—	40	—	0 (15)	—	—	—	—
	9	洪積壤土	—	—	35	—	0 (15)	—	—	—	—
	10	粘質土	—	—	30	—	0 (15)	—	—	—	—
うち豆跡	11	砂壤土	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12	壤土 (洪積含む)	—	—	—	—	—	—	—	—	—

コシヒカリ (5月15日前後植え基準)						てんこもり (5月10日前後植え基準)								
肥		早期追肥	中間追肥	穂 肥		基 肥		早期追肥	中間追肥	穂 肥				
植え時		田植後7日以内	6月15日~20日	出穂15日前	出穂8日前	出穂3日前	代かき前	田植え時	田植後7日以内	6月15日~20日	出穂25日前	出穂15日前		
Jコート コシヒカリ1号	Jコート コシヒカリ2号	Jコート 豆あとコシヒカリ	基肥555	追肥3号 (※注カリ入り土づくり肥料を撒かない圃場) エスアイ加里らくだ		追肥3号	基肥555	LP555-1号	LPs 晩生専用	基肥555	追肥3号 (※注カリ入り土づくり肥料を撒かない圃場) エスアイ加里らくだ			
—	—	—	8	0 (15)	10	10	5	32	—	—	11	0 (15)	10	15
—	—	—	8	0 (15)	10	10	5	28	—	—	11	0 (15)	10	12
—	—	—	8	0 (15)	7	10	5	24	—	—	11	0 (15)	10	10
—	—	—	—	0 (15)	10	10	5	—	36	—	—	0 (15)	10	15
—	—	—	—	0 (15)	10	10	5	—	32	—	—	0 (15)	10	12
—	—	—	—	0 (15)	7	10	5	—	28	—	—	0 (15)	10	10
35	—	—	—	0 (15)	—	—	5	—	—	45	—	0 (15)	—	—
30	—	—	—	0 (15)	—	—	5	—	—	45	—	0 (15)	—	—
—	25	—	—	0 (15)	—	—	5	—	—	40	—	0 (15)	—	—
—	20	—	—	0 (15)	—	—	5	—	—	35	—	0 (15)	—	—
—	—	25	—	0 (15)	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—
—	—	20	—	0 (15)	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—

※地域や圃場の条件により施肥量は異なりますので、詳細については担当営農指導員までお問い合わせください。  
 ※直播栽培の施肥設計例は、P10.11の「直播コシヒカリ(鉄コティング)」の栽培ごよみをご参照下さい。  
 ※注カリ入り土づくり肥料とは、有機加里入りシリカロマン2号・鉄田満太郎の事です。

ください。

## ● 主要農薬表 ●

種類	薬剤名	規格	使用時期	当用価格 (円)	
苗箱 施肥剤	Cs.カビデP/B箱粒剤	1kg	移植3日前～移植当日まで	4,610	
		10kg		44,440	
	スクワトアレスモンカレス箱粒剤	1kg	播種時(覆土前)～移植当日	5,140	
除草剤	一発	ベッカリ1キログラム	1kg	移植直後～ヒトエ3葉 ホトイ4葉 移植後13日まで	3,560
		ゼータジヤガー1キログラム	1kg	移植直後～ヒトエ4葉 ホトイ3葉 移植後18日まで	3,600
		ゴウワンD Lシヤンホ	700g	移植直後～ヒトエ2葉 ホトイ2葉 移植後8日まで	3,970
		ベッカリ豆つぶ250	250g	移植後3日～ヒトエ3葉 ホトイ4葉 移植後13日まで	3,620
	初期	スラッシュ1キログラム	1kg	移植直後～ヒトエ2葉 ホトイ2葉 移植後8日まで	2,790
		ラウ1キログラム	1kg	移植直後～ヒトエ2.5葉 ホトイ2葉 移植後8日まで	3,370
		ワダリ薬粒	250g	移植直後～ヒトエ3葉 ホトイ3葉 移植後8日まで	3,890
		アールタイプフロアブル	500ml	移植後3日～ヒトエ2.5葉 移植後30日まで	3,140
	中期	ザンベックスDX1キログラム	1kg	ヒトエ3.5葉 ホトイ2葉 移植後20～30日まで	3,090
		アクシス MX1キログラム	1kg	ヒトエ4葉 ホトイ4葉 移植後20～30日前まで	3,790
		ノックアウト薬粒	250g	ヒトエ3.5葉 ホトイ4葉 移植後20～30日まで	4,500
	随時	トドメMF1キログラム	1kg	移植後14日～ヒトエ5葉期 収穫50日前まで	2,240
		ヒエクリン1キログラム	1kg	移植後15日～ヒトエ4葉期 収穫45日前まで	2,050
		クインチャージンホ 50g×20	1kg	移植後7日～ヒトエ4葉期 収穫30日前まで	3,210
		レブラス1キログラム	1kg	移植後14日～ヒトエ4葉期 収穫60日前まで	4,050
		ワイドハワー粒剤	3kg	移植後20日～ヒトエ5葉期 収穫60日前まで	5,940
		テッケンジンホ	500g	移植後15日～ヒトエ4葉期 収穫60日前まで	3,820
		ツゲキ豆つぶ250	250g	移植後14日～ヒトエ4葉期 収穫60日前まで	4,030
		トドメハスMF液剤	500ml	移植後15日～ヒトエ6葉期 収穫50日前まで	2,390
		ロイヤル乳剤	200ml	移植後20日～ヒトエ5葉期 収穫45日前まで	3,750
バイスコープ1キログラム		1kg	移植後14日～60日収穫45日前まで	3,970	
バサグラン粒剤	3kg	移植後15日～55日収穫45日前まで	3,880		
本田 防除剤	粉剤	ビームカットミカドF粉剤DL	3kg	早生：穂揃期 中生・晩生：出穂期	2,520
		キラップ粉剤DL	3kg	早生：傾穂期 中生・晩生：傾穂期	1,670
	粒剤	イモチエースタークル粒剤	3kg	早生：出穂5日前 中生・晩生：出穂直前	5,980
	豆粒	ワイドパンチ豆つぶ	250g	出穂10～20日前	5,840
	液剤	ビームエイトスタークルゾル	500ml	早生：穂揃期 中生・晩生：出穂期	4,400
		モンカットフロアブル	500ml	早生：穂揃期 中生・晩生：出穂期	2,290
		キラップフロアブル	500ml	早生：傾穂期 中生・晩生：傾穂期	5,310

※【散布時期】は、薬剤の登録範囲内で、除草効果を考慮した目安の時期となっています。

## 2026 1月

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
28	29	30	31	1 元日	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 成人の日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

## 2026 2月

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11 建国記念の日	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23 天皇誕生日	24	25	26	27	28

# 3月

## 高品質で安全・安心な米づくりは土づくりから

気象変動に負けない丈夫な稲を作り、高品質で美味しいお米を生産するためには、土づくりが重要です。また、土壌の pH 矯正はカドミウムの吸収抑制対策にもなります。

継続的な土づくりに積極的に取り組みましょう。



### ●土作り資材の継続的施用●



積極的にケイ酸質資材を施用しましょう！！

ケイ酸は稲にとって大変重要な成分です。ケイ酸は、葉や根を丈夫にして病気や倒伏に強い稲を作り、登熟を向上させます。また近年、酸性化したほ場も増加していますので、毎年継続して土づくり資材を施用しましょう。

### 土づくり資材の施用量及び成分

資材名	施用量 (kg/10a)	成分含有量(%)						
		ケイ酸	リン酸	苦土	鉄	加里	有機 (アズミン)	アルカリ分
①有機加里入り シリカロマン2号	80kg以上	20	3	4	4	4	20	34
②鉄田満太郎	100kg以上	20		3.5	20	6		26
③シリカロマン	80kg以上	25	5	7	5			45
④砂状ケイカル	200kg	31						48

※③・④を使用する場合、6月中下旬に**アイ加里らくだ**・**アイ加里投げくん**を施用しましょう。

### GAPチェック！



取組事項ごとに自分の農業生産の現状と比較し、「○△×」ので自己点検しましょう！！

「○」取組事項を実践している。  
「△」取組事項を実践したが、効果が十分ではない。  
「×」取組事項を実践していない。  
「－」実践する必要がない。

No	取組事項	チェック日	チェック
1	死亡やけがに備えて、労災保険(労働者災害補償保険)等へ加入していますか？また、路上等で第三者を巻き込んだ事故(対人)や、機械等が破損(対物)した場合に備えた任意保険へ加入していますか？	月 日	
2	機種に応じた運転免許やナンバープレートは取得していますか？ ※ロータリーを装着した状態で、長さ4.7m・幅1.7m・高さ2.0mを超える場合は、大型特殊免許が必要です。	月 日	
3	土づくり資材(ケイ酸質資材等)や有機物(堆肥、緑肥等)の施用による土づくりを行いましたか？	月 日	
4	経営規模・機械装備に応じ、バランスの取れた品種構成で作付を計画しましたか？	月 日	
5	農業機械は事前に整備、点検修理等を行い、交換部品は定期的に交換していますか？	月 日	

# 3月

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

## 農作業のあしあと



※「農作業のあしあと」に記録した内容を、  
巻末の栽培管理記録簿へ記入しましょう。

No	作業内容	作業日(期間)	資材名	散布量	その他(作業圃場の地名地番など)
1	土づくり資材散布			Kg/10a	
				Kg/10a	
2	有機物の施用			Kg/10a	
				Kg/10a	
3	耕 起		—	—	
			—	—	
4					
5					

# 4月

売れる米づくりは、健苗育成から始まる！！

## ●育苗作業の目安●

※田植え日に合わせた育苗を行いましょ

品種	田植日	浸種開始	催芽	播種	ハウス搬出	田植	育苗日数(注)
てんたかく てんこもり	5/5	4/1	4/12	4/13	4/17	5/5	23 日程度
コシヒカリ	5/15	4/17	4/25	4/26	4/29	5/15	19 日以内

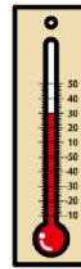
(注)育苗日数は播種した日からの日数です。

## ●浸種のポイント●

- ①水量は、種もみ 10kg に対して、水 30~40 ㍓使しましょう。
- ②水温は 10℃以上確保しましょう。
- ③浸種開始時は適水温 (12.5℃) で浸種を行いましょ。
- ④浸種日数の目安は、積算温度で 100℃を確保しましょ。

### 【注意】

- ・水温が低い日が続く場合 (10℃以下) は、浸種期間を十分に確保しましょ。
- ・水温が高くなると、種もみの糖化が進み水中の酸素濃度が低下するので、2 日に 1 回は水を交換しましょ。



ビニールハウス内に、**温度計**を設置しましょ！！

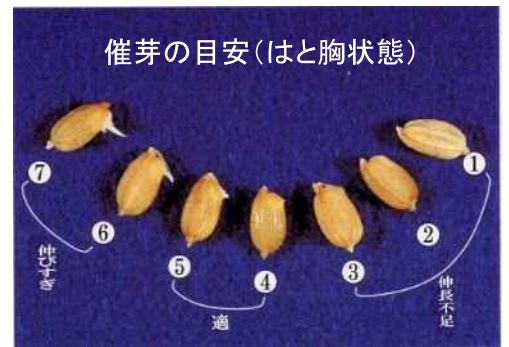
浸種の目安  
(積算温度 100℃)

水温	浸種日数
10℃	10 日間
13℃	8 日間

## ●催芽(芽出し)のポイント●

- ①「はと胸」(芽の先端が 1mm 程度出た状態) (右図参照)  
※伸びすぎは、播種ムラの原因になるので注意！！
- ②催芽時の加温目安時間：28~30℃で 18 時間程度
- ③育苗器で加温する場合は、サーモスタットや温度計が正しいか、事前に確認しましょ。

催芽の目安(はと胸状態)



## ●播種時の防除●

対象病害	剤型	希釈倍率	箱当たり施用量	使用方法
苗立枯病	ナエファインフロアブル	2,000 倍	1,000ml	灌注
もみ枯細菌病 及び 苗立枯細菌病	カスミン液剤	4~8 倍液	50ml	播種後覆土前散布
			30 g	育苗培土混和
	カスミン粒剤	—	15~20 g	覆土混和
			15~20 g	播種後覆土前散布

※ナエファインフロアブルの適用病害は、リゾープス、ピシウム、フザリウムです。

※もみ枯細菌病の対策として、カスミン液剤もしくは、カスミン粒剤を播種時に散布しましょ。

カスミン粒剤は一箱あたりの育苗培土に 30g 混ぜていただくか、覆土に 30g 混ぜる方法で使用できます。

もみ枯細菌病の発生が見られるハウスでは、カスミンの散布に合わせて育苗期間の温度管理を徹底しましょ。

# 換気を徹底し、ガッチリ苗に仕上げましょう！！

## ●育苗管理のポイント(初期)●



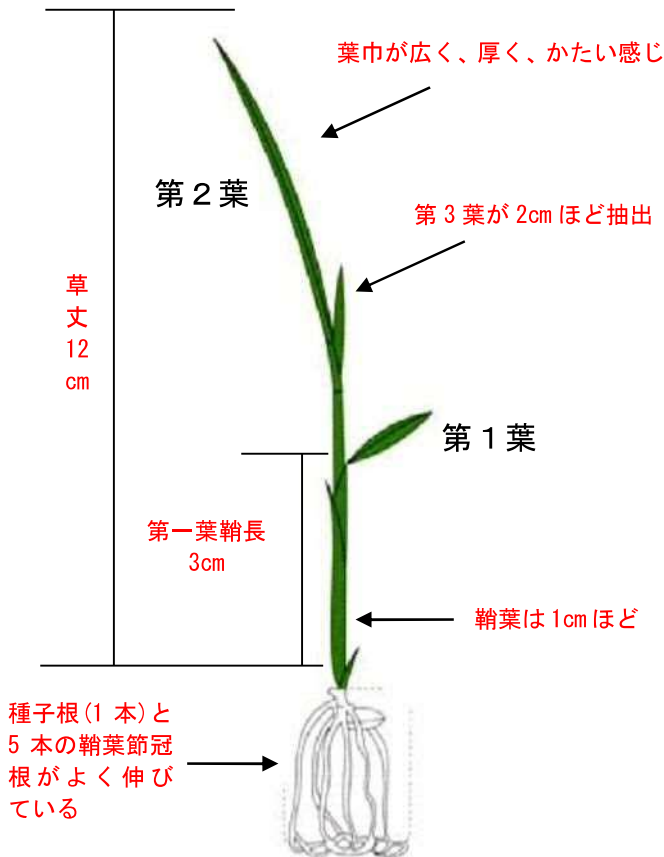
晴れた日は外気温が低くても、ハウス内は高温になるので早めに換気をしましょう

	温度管理		水管理
搬出から 2~3 日 (緑化期)	昼 20~25℃	夜 10℃以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として搬出時のかん水のみとする</li> <li>・覆土が白く乾いたら、日中でもかん水をする</li> </ul>
搬出から 4~10 日 (硬化期初期)	昼 20~25℃	夜 10℃以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則は 1 日 1 回だけ、早朝にたっぷりやる</li> <li>・覆土が乾いたら適宜かん水(風の通り道は乾きやすいので注意)</li> </ul>

## ●育苗管理のポイント(後期)●

	温度管理		水管理
搬出から 11 日~ (硬化期後期) 12cm 程度	昼 15~20℃	夜 10℃以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝にたっぷりかん水を行い、日中に覆土が乾いたら 2 度目のかん水を行う。</li> <li>※ただし、やりすぎには注意！！</li> </ul>

## ●良い苗づくり●



### ポイント1

苗質の良否が、活着、初期茎数の早期確保に大きな影響を及ぼします。育苗日数が 19 日程度になるように、田植え日を基準にして播種計画を立てましょう。

### ポイント2

ビニールが新しい場合や、透明ビニールを使用する場合は、日射が強くハウス内の温度が急激に上がるため、苗がヤケやすくなるので注意しましょう。

### ポイント3

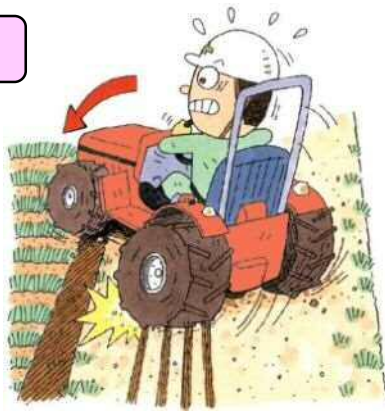
5℃前後の低温に遭遇する等、ムレ苗の発生が懸念される場合は、タチガレエースM液剤の 500 倍又はナエファインフロアブルの 1000 倍を 1 箱あたり 500ml 灌注しましょう。

### ポイント4

肥切れの兆候が見られる場合は、1 箱あたり 硫安 5g 以内を水 500ml に溶かして追肥しましょう。

こまめな温度管理で、病気の無い健康な苗づくりに努めましょう。

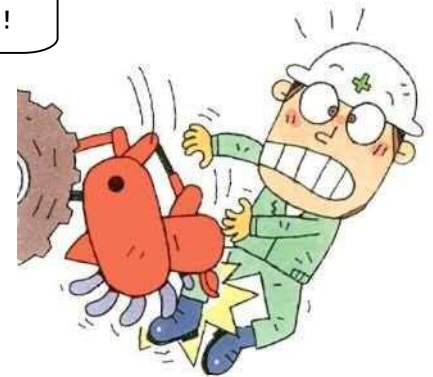
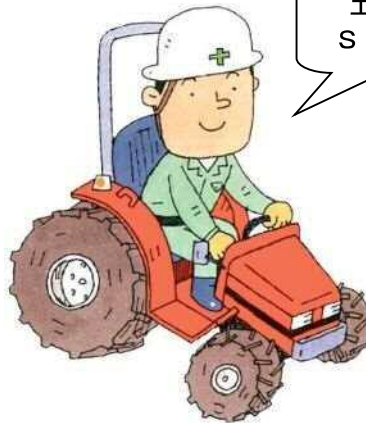
## ブレーキペダルの連結



- 走行時に、片ブレーキになった場合ハンドルがとられて、転倒事故等に繋がりますので、ブレーキペダルの連結を忘れないようにしましょう。
- 作業終了後に、ブレーキペダルの連結を習慣にしましょう。

## 点検時の注意点

- 点検作業を行う場合は、必ずエンジンを切りましょう。
- 作業機の下に潜ったり、足を踏み込んだりしないようにし、作業機を上げて点検する時は、落下しないように固定しましょう。



## 整備の実施



- 整備不良が原因で、思わぬ事故をひきおこすことがありますので、作業開始前に故障しているところがないか確認をしましょう。
- シーズン終了後には、定期点検を受けるようにし、消耗部品等は新しいものに交換しておきましょう。

## GAPチェック!



取組事項ごとに自分の農業生産の現状と比較し、「○△×」の三段階で自己点検しましょう!!

- 「○」取組事項を実践している。
- 「△」取組事項を実践したが、効果が十分ではない。
- 「×」取組事項を実践していない。
- 「-」実践する必要がない。

No	取組内容	チェック日	チェック
1	種子消毒廃液と消毒済み種子の適正な処理をしていますか? 【例】種子消毒の廃液は適切な方法で処理し、播種が終わったら残った種子は速やかに廃棄処理を行っている。	月 日	
2	農業機械は事前に整備、点検修理等を行い、交換部品は定期的に交換していますか? <u>栽培記録簿の「作業機械メンテナンス」欄に記入しましょう。</u>	月 日	
3	死亡やけがに備えて、労災保険(労働者災害補償保険)等へ加入していますか? また、路上等で第三者を巻き込んだ事故(対人)や、機械等が破損(対物)した場合に備えた任意保険へ加入していますか?	月 日	
4	機種に応じた運転免許やナンバープレートは取得していますか? ※ロータリーを装着した状態で、長さ 4.7m・幅 1.7m・高さ 2.0m を超える場合は、大型特殊免許が必要です。	月 日	
5	使用する農薬や燃料は適正な保管を行っていますか? 燃料の容器は専用のもを使用していますか?	月 日	



# 5月

## 品質向上のポイントは分けつの確保！！

使用薬剤名	対象病害虫	散布量
Gs. オリゼリディア EV 箱粒剤	いもち病・紋枯病・ イトトヨムシ・イミズゾウムシ	50g/箱 (1kgで20箱 散布)
スタウトアレスモンガレス 箱粒剤	いもち病・紋枯病・ イトトヨムシ・イミズゾウムシ イゴ・ニカメイチュウ	50g/箱 (1kgで20箱 散布)



上記写真のようなニカメイチュウが多かった圃場には、スタウトアレスモンガレス箱粒剤をオススメします。



苗箱施薬剤は、必ず育苗ハウスから出した後、田植え直前 または 同時に散布しましょう。

苗箱施薬剤をハウス内で散布し、水稻育苗後に野菜を栽培した場合、収穫物が農薬残留基準値を超える恐れがあるため、ハウス内では絶対に散布しないでください。

※苗箱施薬剤と除草剤を取り違えないように十分注意しましょう。

### ●田植作業のポイント●

👉 適切な田植え作業で初期茎数を確保しよう

- ①代かきから田植えまでは、5日以内を目安にしましょう！
- ②田植え作業を行う前に、田植機の点検と設定を行いましょう！
- ③田植え開始時に 植付本数・植付深さ・肥料の落下量を確認しましょう！

※全層施肥の場合

田植え1週間後に早期追肥「基肥555」を散布しましょう！  
てんたかく・てんこもり 11kg/10a  
コシヒカリ 8kg/10a



項目	設定	注意点
基肥量	地域基準量	P12、13の品種別施肥設計例を参考にしてください。 地域基準量が不明な場合は、担当営農指導員にお問い合わせください。
栽植密度	60~70株/坪	茎数が確保しにくい圃場では、過剰着粒による品質低下を避けるため、70株/坪植えを行いましょう。
植付け本数	3~4本/株	生育のばらつきを少なくするために植付け本数を調整しましょう。
植付け深さ	3cm程度	植付けが深すぎると茎数が増えにくくなります。 初期茎数を確保するためにも植付け深さを守りましょう。

### ●田植え後の水管理●

👉 活着後の浅水管理で初期茎数を確保しましょう。  
水温、地温の上昇に努め、初期生育の促進を図りましょう。



#### やや深水(4~5cm)

- ・ 植え傷みを防ぎ、活着を促進しましょう。

#### 浅水管理(田面が露出しない程度)

- ・ 初期の分けつを促進しましょう。
- ・ 寒い日や風の強い日は深水にし、苗を守りましょう。
- ・ 早朝に入水、日中は止水し、田水温を高めましょう。
- ・ 藻が発生している圃場では、軽めの田干しを行いましょう。

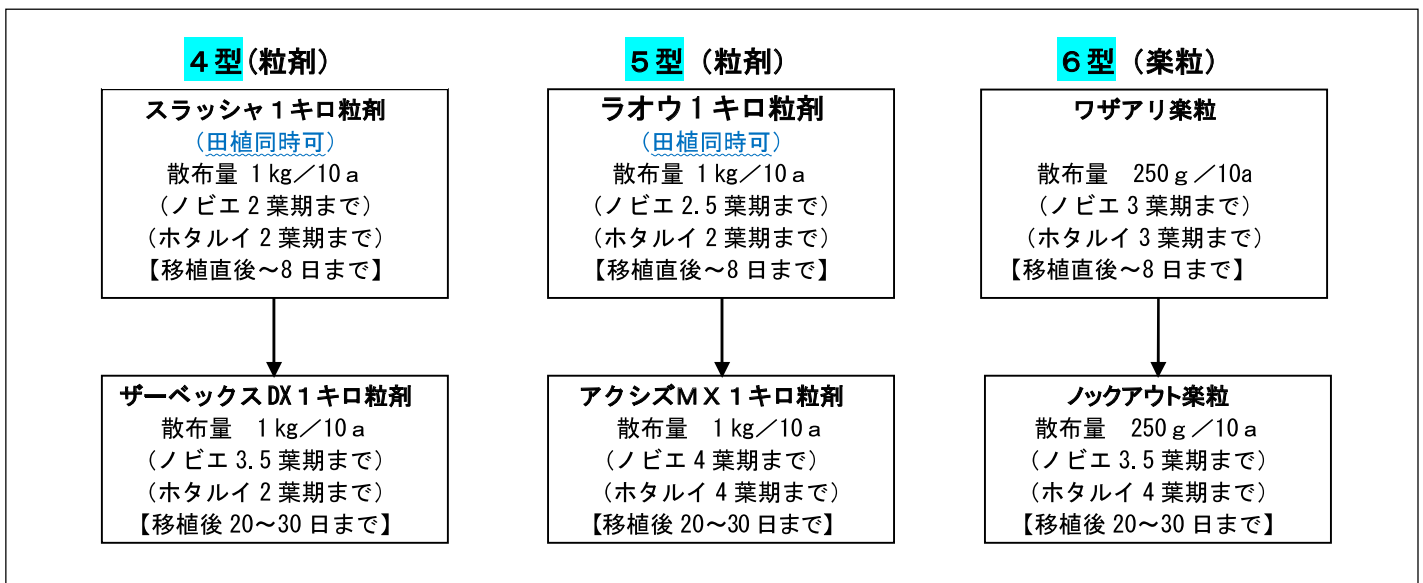
田植え後  
約1カ月の  
水管理が  
重要です！

# 雑草防除体系

## ◎一発処理型

【1型-1】(粒剤)	【1型-2】(粒剤)	2型(投げ込み)	3型(豆つぶ)
<b>ベッカク 1キロ粒剤</b> (田植同時推奨) 散布量 1kg/10a (ノビエ3葉期まで) (ホタルイ4葉期まで) 【移植直後～13日まで】	<b>ゼータジャガー 1キロ粒剤</b> (田植同時推奨) 散布量 1kg/10a (ノビエ4葉期まで) (ホタルイ3葉期まで) 【移植直後～18日まで】	<b>ゴウワンDL ジャンボ</b> 散布量 70g×10個/10a (ノビエ2葉期まで) (ホタルイ2葉期まで) 【移植直後～8日まで】	<b>ベッカク豆つぶ 250</b> 散布量 250g/10a (ノビエ3葉期まで) (ホタルイ4葉期まで) 【移植後3日～13日まで】

## ◎体系処理型



※【散布時期】は、薬剤の登録範囲内で、除草効果を考慮した目安の時期となっています。

※体系処理型で雑草が残る場合は、随時防除が必要になることがありますので、担当営農指導員にご相談ください。

## ●雑草防除のポイント●

前年度の「営農記録ノート」P24のチェックを振り返り、発生雑草にあわせた防除で確実に退治しましょう！！

田植え繰り下げに伴い、代かき後の気温が高くなり、雑草の生育が早くなります。  
除草剤は遅れないように散布しましょう。



### 除草剤使用上の留意点

～農薬の「効果の安定」と「河川等への流出防止」のために～



- ①圃場の条件(水持ちの状態・雑草の発生具合)に合わせて、使用する除草剤を選択しましょう。
- ②代かきから田植えまでの日数は長くなりすぎないように注意しましょう。
- ③除草剤は5cm以上の深水状態で散布し、散布後5日間は湛水状態を保ちましょう。
- ④田植同時散布機による除草剤施用の場合、軟弱苗や極端な浅植えは避け、薬害防止に努めましょう。
- ⑤河川等への流出防止のため、散布後7日間は落水しないようにしましょう。

## ● 主な水田雑草 ●



発生している雑草を記録しておきましょう！！  
チェック欄に☑を記入しましょう！！

チェック



ウリカワ

チェック



オモダカ

チェック



カヤツリグサ

チェック



コナギ

チェック



ホタルイ

チェック



マツバイ

チェック



ヒエ

チェック



クログワイ



体系処理後に雑草が残っている場合は、随時防除で雑草退治



### 【雑草随時防除薬剤】

適用雑草	剤型	薬剤名	使用量/10a (希釈水量)	使用時期	使用期限
ヒエ	粒剤	トドメMF 1キロ粒剤	1kg	移植後 14日～ノビエ 5葉期	収穫 50日前
		ヒエクリーン 1キロ粒剤	1kg	移植後 15日～ノビエ 4葉期	収穫 45日前
	投げ込み	クリンチャージャンボ	20個(1袋)	移植後 7日～ノビエ 4葉期	収穫 30日前
			30個(1.5袋)	移植後 25日～ノビエ 5葉期	
乳剤	トドメMF乳剤	200ml(100ℓ)	移植後 14日～ノビエ 7葉期	収穫 50日前	
ヒエ 広葉雑草	粒剤	レブラス 1キロ粒剤	1kg	移植後 14日～ノビエ 4葉期	収穫 60日前
		ワイドパワー粒剤	3kg	移植後 20日～ノビエ 5葉期	収穫 60日前
	投げ込み	テッケンジャンボ	10個(1袋)	移植後 15日～ノビエ 4葉期	収穫 60日前
	豆つぶ	ツイゲキ豆つぶ 250	250g	移植後 14日～ノビエ 4葉期	収穫 60日前
	液剤	トドメバスマF液剤	1000ml(100ℓ)	移植後 15日～ノビエ 6葉期	収穫 50日前
ロイヤント乳剤		200ml(100ℓ)	移植後 20日～ノビエ 5葉期	収穫 50日前	
広葉雑草	粒剤	バイスコープ 1キロ粒剤	1kg	移植後 14～60日	収穫 45日前
		バサグラン粒剤	3～4kg	移植後 15～55日	収穫 45日前

※使用時期は薬剤の登録範囲内で、除草効果を考慮した目安の時期となっています。

※バサグラン粒剤・トドメMF乳剤・トドメバスマF液剤・ロイヤント乳剤は落水散布です。

※バサグラン粒剤は P25 の使用方法を参照ください。



発生している雑草に合わせて、除草剤を選びましょう。  
除草剤の選び方や、使用方法がわからない時は担当営農指導員に相談しましょう。

「ヒヤリ」・「ハッと」は事故の元！事故のない農作業に努めましょう！



緊急時などに備え、作業機の動力遮断方法やエンジンの停止方法を、作業者全員が確認しましょう。



段差のある圃場への出入りや、あぜ道の乗り越えは直角に行いましょう。あぜ道を乗り越える際は、前輪が上がったり滑りやすいので、前進でゆっくりと走行しましょう。



エンジンの始動は、各操作レバーが中立の位置にあることを確認して行いましょう。苗を補給する際は転落しないよう足元に注意し、田植え機を発進するときは周囲の安全確認を行いましょう。



無理のない作業計画を立て、適度に休憩をとるようにしましょう。

GAPチェック！



取組事項ごとに自分の農業生産の現状と比較し、「○△×」の三段階で自己点検しましょう！！

- 「○」取組事項を実践している。
- 「△」取組事項を実践したが、効果が十分ではない。
- 「×」取組事項を実践していない。
- 「-」実践する必要がない。

No	取組内容	チェック日	チェック
1	代かき後の濁水を流出しないようにしていますか？また、水稻除草剤の散布後は、一週間程度は止水・湛水状態を保つようにしていますか？	月 日	
2	基肥量は地域の土壌条件に応じた基準量とし、圃場ごとの施肥設計を作成していますか？ 【例】土壌診断などによる適正な基肥量を施用している。	月 日	
3	推奨されている農薬(除草剤など)を使用し、使用前にラベルをよく読み内容の確認を行い適正に使用していますか？	月 日	
4	農業機械は事前に整備、点検修理等を行い、交換部品は定期的に交換していますか？	月 日	
5	草刈りを行う場合は防護服などを着用し安全作業に努めていますか？また、刈り取った雑草は用排水路に流していませんか？	月 日	

# 5月

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
26	27	28	29	30	1	2
3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

## 農作業のあしあと



※「農作業のあしあと」に記録した内容を、  
巻末の栽培管理記録簿へ記入しましょう。

No	作業内容	作業日(期間)	使用農薬・肥料名	使用量・散布量(10a 当たり)
1	耕 起		—	—
2	荒 代 か き		—	—
3	代 か き		—	—
4	田 植 え		—	使用した苗の枚数 枚/10a
5	苗 箱 施 薬		Cs. オリゼ`リテ`ィアEV 箱粒剤	50g/箱
			スタウトアレスモンガレス箱粒剤	
6	基 肥			Kg/10a
7	早 期 追 肥			Kg/10a
8	除草剤散布(初期)			/10a
	除草剤散布(中期)			/10a



## バサグラン粒剤の上手な使い方



### どんな雑草に効果的？

水田の多年生雑草に対して生育期の散布で優れた防除効果を発揮します。近年発生が多い「ウリカワ」「ホタルイ」「ミズガヤツリ」などに有効です。

しかし、「ヒエ」には効果が無いので、「ヒエ」の多い圃場では他の除草剤との体系防除で使用するようにしましょう。



ウリカワ



ホタルイ



ミズガヤツリ



ヒエ

### 使用上の注意点

●水の移動に伴う移行性が大きく、一般に水深の浅いほど効果が安定します。使用にあたっては落水状態(足跡に水が残っている状態)にして水の出入りを止め、まきむらのないよう均一に散布しましょう。

落水状態でも、中干のように圃場が乾いているような場合は、効果が劣ります。

また、深水状態でも効果が劣りますので、水管理が非常に重要となります。



飽水状態

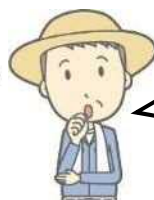
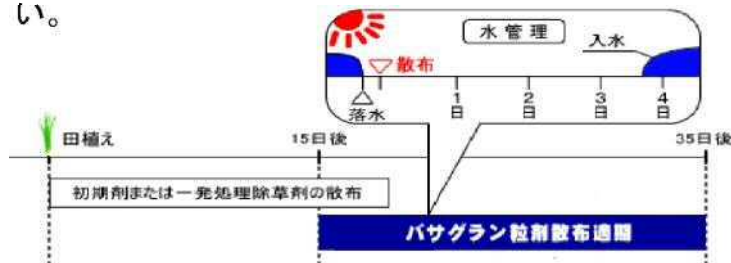


中干し状態



湛水状態

●散布後少なくとも3日間(浅水処理は5日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしないでください。また、散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水しないでください。



うまく効かせるには  
水管理や天気も非常に  
重要なんだね！

●処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用しましょう。

●イネ科雑草には効果が劣るので、田植前後の土壌処理除草剤で一年生雑草を防除した後、多年生雑草および一年生広葉雑草の防除を目的として使用してください。

# 6月

## 適切な中干しで、登熟まで働き続ける根の確保

### ●溝掘りのポイント●



6月上旬頃（田植え後4週間頃）には、設置しましょう

- ①軽く田干しを行い、泥を落ち着かせてから溝を掘りましょう。
- ②溝は15条に1本を目安に設置しましょう。
- ③溝は必ず排水口に連結しましょう。
- ④干しにくい部分（水口、枕地、畦際など）は重点的に設置しましょう。



<土が硬いと溝がしっかり残る>



<土が柔らかいと溝が崩れてしまう>

中干しの効果を高め、生育後半までの水管理がしやすくなります。



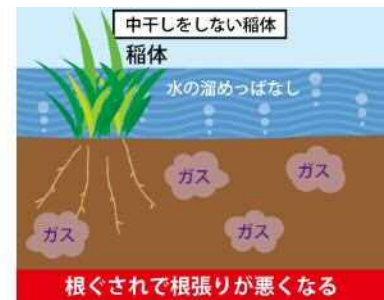
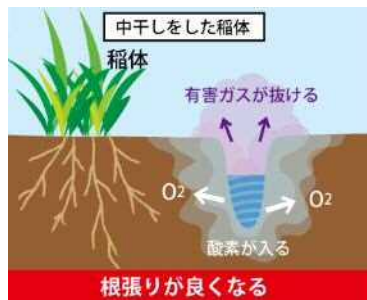
### ●中干しのポイント●



中干しは「田植えの4週間後頃まで」に遅れずスタートしましょう

#### 【中干しの効果】

- ① 土壌中の有害ガスの排出
- ② 根の生育を促進
- ③ 過剰な分げつの抑制
- ④ 収穫時の圃場の硬さを確保



#### 【中干しの程度】

- 田面に小さいヒビが入る程度を目安に、干し過ぎないように数回に分けて徐々に干しましょう。
- 幼穂形成期頃までに足跡の深さ3cm程度を目安としましょう。  
⇒ 高品質で安全な米づくりに重要な出穂後の湛水管理に備えましょう。

#### 【中干し後の水管理】

- 中干し後は、間断かん水を行きましょう。  
⇒ 根に水と酸素を交互に与えることにより健全な稲体が維持できます。  
⇒ 高温時は中干しや間断かん水時の落水期間が長すぎる等、干しすぎないように注意しましょう。



### ●中間追肥(エスアイ加里らくだ・エスアイ加里カリ投げくん)を散布しましょう

※カリ入り土づくり肥料(有機加里入りシリカロマン2号・鉄田満太郎)を散布した圃場は、中間追肥の散布は不要です。

中間追肥(エスアイ加里らくだ 15kg/10a・エスアイ加里カリ投げくん 200g×20個/10a)を散布し、根の活力を高め、健全な稲体づくりで品質の向上に努めましょう。

いもち病の発生を防止するためにも、補植用の苗は圃場から除去しましょう。

# 6月

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4

## 農作業のあしあと



※「農作業のあしあと」に記録した内容を、  
巻末の栽培管理記録簿へ記入しましょう。

No	作業内容	作業日(期間)	使用農薬・肥料名	使用量・散布量(10a 当たり)
1	除草剤散布(中期)			/10a
	除草剤散布(後期)			/10a
	除草剤散布(随時)			/10a
2	中干し開始		—	—
3	中間追肥散布		エスアイ加里らくだ エスアイ加里カリ投げくん	Kg/10a
4	畦畔の草刈り		—	—
5				

# 7月

適正な穂肥の施用で稲体の活力維持と品質向上！適期防除でカメムシ退治！

## ●てんたかくの穂肥と病虫害防除のポイント●



てんたかくの穂肥

👉 てんたかくの葉色は4.0を下回らないようにしましょう。

**【分施肥体系の場合】 ■5/5 頃田植えの場合：1回目穂肥は6月下旬～7月上旬**

穂肥の施用時期と施用量(10a 当たり、追肥3号使用の場合)

施用時期		砂壤土	壤土 (洪積)	粘質土
1回目	・幼穂長が1mm ・葉色(葉色板)が4.0～4.5	10kg	10kg	10kg
2回目	1回目から10日後	15kg	12kg	10kg

※葉色が薄い(4.0を下回ることが予想される)場合

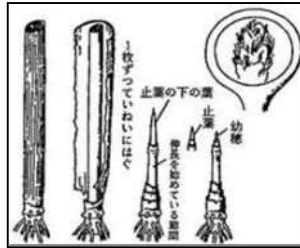
⇒ 砂壤土のほかの場合、すぐに追肥3号を10kg/10a程度施用しましょう。

**【基肥一発肥料施用体系の場合】**

・葉色が薄い(4.0を下回ることが予想される)場合、すぐに追肥3号を7kg/10a程度施用しましょう。

**幼穂の確認方法！**

稲を引き抜き  
1枚ずつ丁寧に葉を  
めくりましょう！



幼穂

てんたかくの病虫害防除



適期防除に努めましょう。  
粒剤の散布は早すぎないように注意しましょう。

**【防除薬剤の散布時期と散布量】**

**農薬の散布前に、P35をチェック!!**

粉剤

散布時期	農薬名	散布量	病虫害
1回目穂揃期 (7/20頃)	ビームモンカットスタークル F 粉剤5DL	4kg /10a	いもち病・紋枯病 ウンカ類・カメムシ類 ツマグロヨコバイ
2回目傾穂期 (7/27頃)	キラップ粉剤 DL	4kg /10a	ウンカ類・カメムシ類 イネドロオイムシ イナゴ類

※風のない時に散布するなど農薬飛散防止に努めましょう。

粒剤

散布時期	農薬名	散布量	病虫害
出穂の5日前	イモチエーススタークル粒剤	3kg /10a	いもち病・紋枯病 ウンカ類・カメムシ類 ツマグロヨコバイ

豆つぶ剤

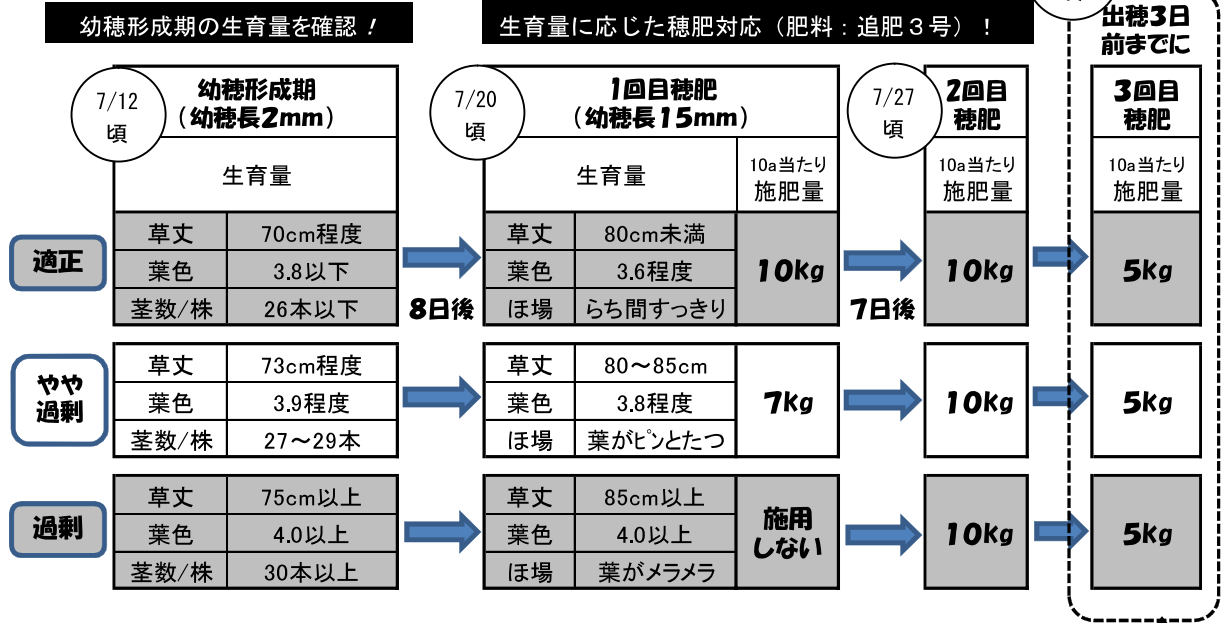
散布時期	農薬名	散布量	病虫害
出穂の 10～20日前	ワイドパンチ豆つぶ	250g /10a	いもち病・紋枯病 ウンカ類・カメムシ類

# ●コシヒカリの穂肥のポイント●

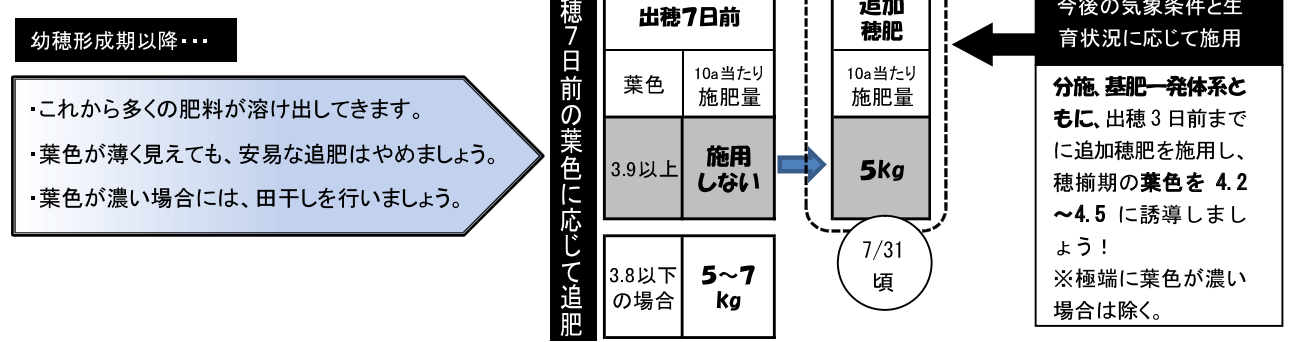
## コシヒカリの穂肥

1回目は「**慎重に**」、2回目は「**確実に**」、3回目は「**適切に**」

### 【分施肥系の場合】



### 【基肥一発肥料施用体系の場合】



【注意】上記フローチャート内の日付は、幼穂形成期を7月12日頃（出穂8月3日頃）とした目安の日付ですので、その年の天候等により前後する場合があります。  
また、地域や圃場間で生育状況が違いますので、今後の気象経過を見極めて、1回目の穂肥は慎重に施用しましょう。詳細については、青田まわり等で担当営農指導員にご相談ください。

# ●飽水のポイント●

高温下での飽水管理は乾きすぎないように注意しましょう。

飽水管理とは、田面に水は溜まっておらず土には十分に水が含まれていて羊かん状になっている状態です。入水と自然減水を繰り返して、足跡に少し水が溜まる程度がベストです。

### 【目的と効果】

- ・土に酸素を補給し、根腐れを防止し、伸長を促します。
- ・土中の有害ガス（硫化水素・メタンガスなど）が抜けます。  
有害ガスが抜けると、根に酸素が補給され地中深く伸びます。  
有害ガスがあると、根が横方向に伸び、株と株の間で肥料の奪い合いが始まります。地表部分の肥料が無くなり、肥料切れを起こす原因になります。



## ● 随時防除 ●

早期発見に努め、発生が見られた場合は必ず防除しましょう。



① 紋枯病は、高温・多湿が続くと発生しやすい。

② 稲こうじ病は、常発地・前年発生が多かった圃場で発生しやすい。



散布時期	病害虫	農薬名	10a 当たり散布量
早生：出穂 14 日前頃 中生：出穂 10 日前頃 晩生：出穂 7 日前頃	紋枯病	モンカットファイン粉剤 20DL	4 k g
	稲こうじ病	ブラシン粉剤 DL	4 k g
出穂 2～3 週間前	稲こうじ病 紋枯病	モンガリット 1 キロ粒剤	1～1.3 k g

## ● コシヒカリの生育ステージと施肥時期の早見表 ●



# 7月

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20 海の日	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	30	1

## 農作業のあしあと



※「農作業のあしあと」に記録した内容を、  
巻末の栽培管理記録簿へ記入しましょう。

No	作業内容	作業日(期間)	使用農薬・肥料名	使用量・散布量(10a 当たり)
1	畦畔の草刈り		—	—
2	早生の出穂期	月 日頃 (穂が全体の4~5割出た頃)		
3	穂 肥			Kg/10a
				Kg/10a
				Kg/10a
4	病虫害防除			/10a
	病虫害防除(随時)			/10a
5	病虫害の発生状況			

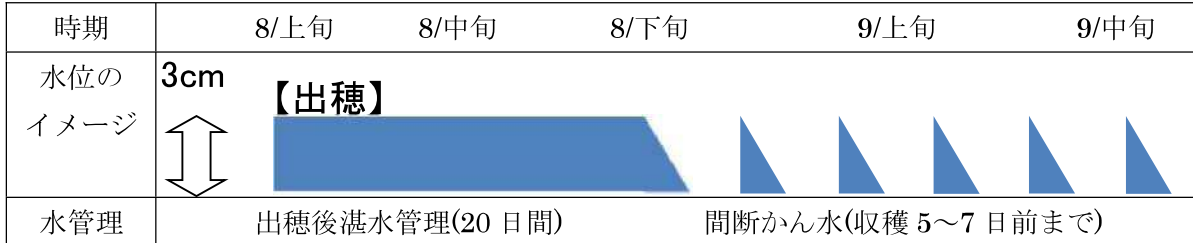
# 8月

## 高品質の決め手は水管理と病害虫防除

### ●コシヒカリの水管理と病害虫防除のポイント●

#### コシヒカリの水管理

##### 水管理のイメージ



- ① 出穂後20日間は、湛水管理を徹底しましょう。
- ② 収穫の5~7日前まではしっかり間断かん水をしましょう。
- ③ フェーンが予想される時は、事前に入水しましょう。

#### コシヒカリの病害虫防除

##### 【防除薬剤の散布時期と散布量】 ※出穂期を7月31日頃と推定した場合の目安

#### 粉剤

散布時期	農薬名	散布量	病害虫
1回目出穂期 (7/31頃)	ビームモンカットスタークル F 粉剤5DL	4kg /10a	いもち病・紋枯病 ウンカ類・カメムシ類 ツマグロヨコバイ
2回目穂揃期 (8/7頃)	キラップ粉剤 DL	4kg /10a	ウンカ類・カメムシ類 イネドロオイムシ イナゴ類

#### 粒剤

散布時期	農薬名	散布量	病害虫
出穂直前 (7/28頃)	イモチエーススタークル	3kg /10a	いもち病・紋枯病 ウンカ類・カメムシ類 ツマグロヨコバイ

#### 液剤

散布時期	農薬名	散布量	病害虫
1回目出穂期 (7/31頃)	ビームエイトスタークルゾル 1000倍液 モンカットフロアブル 1000倍液	100~150ℓ /10a	いもち病・紋枯病 ウンカ類・カメムシ類 ツマグロヨコバイ
2回目穂揃期 (8/7頃)	キラップフロアブル 1000倍液	100~150ℓ /10a	ウンカ類・カメムシ類 イネドロオイムシ イナゴ類

#### 豆つぶ剤

散布時期	農薬名	散布量	病害虫
出穂の 10~20日前	ワイドパンチ豆つぶ	250g /10a	いもち病・紋枯病 ウンカ類・カメムシ類

※風のない時に散布するなど農薬飛散防止に努めましょう。

※防除効果を高めるために、1回目と2回目は10日以上間隔を空けないようにしましょう。

## ●農薬使用時の注意点●



生産者同士や地域の方々と連携をとり、農薬使用時には連絡を密に行いましょう。



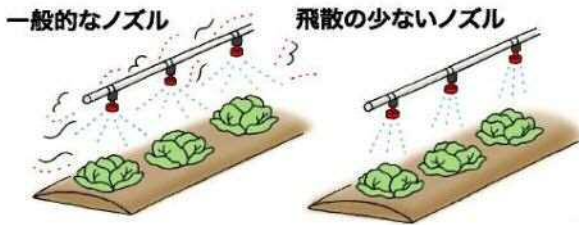
風のない日や弱い時刻を選んで散布しましょう。散布中でも風向き・風速は変化するので常に注意が必要です。



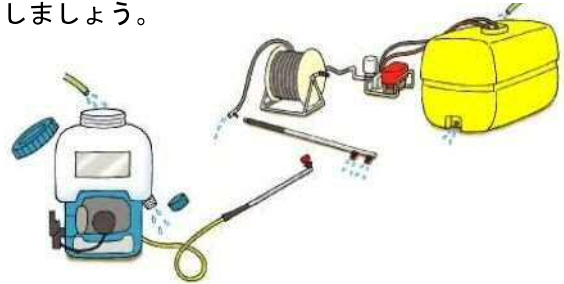
周辺圃場の作物状況を確認し、より多くの作物に使用できる農薬を選ぶなど、使用農薬も見直しましょう。



対象作物から離れた所から散布すると、飛散しやすくなるので、なるべく作物の近い位置から散布しましょう。



飛散の少ないノズルに切り替えたり、粒剤など、より飛散しにくい剤型に代えることでも、効果があります。



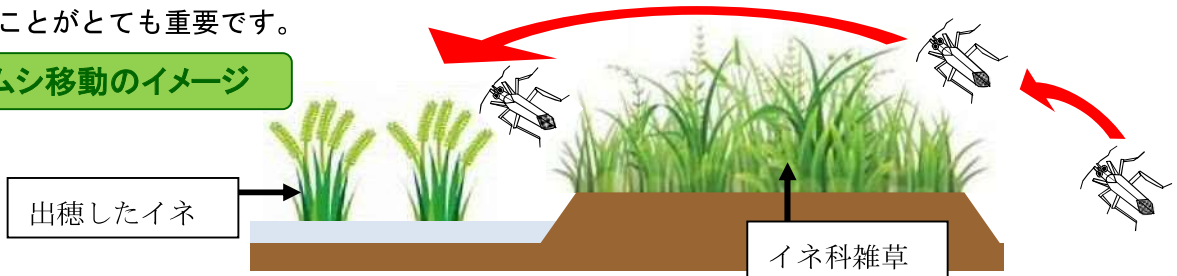
農薬が散布器具に残っていると作物に薬害が生じたり、未登録の農薬が残留するなど思わぬ事態が起こります。タンクやホース等に薬剤が残らないようしっかりと洗浄しましょう。

## 畦畔のイネ科雑草はカメムシを呼び込む

斑点米の原因となるカメムシ類は、イネ科植物の穂を好み、イネの穂よりもイネ科雑草の穂の方を好む傾向があります。カメムシ類はイネの穂に集まるより前に、畦畔のイネ科雑草の穂に集まります。その後、イネが出穂すると圃場に移り、イネを加害します。

カメムシによる斑点米の被害を抑えるためには、まず、畦畔のイネ科雑草の穂が出ないように畦畔の草刈を行うことがとても重要です。

### カメムシ移動のイメージ



### 畦畔でよく見られるイネ科雑草



## ●収穫適期のポイント●

てんたかく



近年、高温により出穂が早回っています。刈り遅れによる胴割米が発生しないよう、適期に収穫を行いましょう。

- 籾の黄化率を十分に確認の上、適期に収穫を行いましょう。
- 籾の黄化率85～90%を目安に収穫しまししょう。
- 早刈りは青未熟粒、刈り遅れは胴割粒の発生原因となります。

品 種	出 穂 期	刈取時期
てんたかく	7月18日頃	8月21日～8月24日頃



※上記の刈取時期は、近年の出穂期から予測される日付ですので、出穂以降の天候や圃場の条件等により変動します。出穂期や刈取適期は、「稲作管理情報」や担当営農指導員に確認しまししょう。



収穫は地域の刈取標準田を参考にしてください。  
圃場によって刈取適期が異なりますので必ず黄化状況を確認しまししょう。

※乾燥調製のポイントや収穫時の注意事項などは、9月のページに記載してあります。

## 栽培管理記録簿の提出をしまししょう！

春からの作業内容を振りかえり、「農作業のあしあと」に記録した内容を、巻末の栽培管理記録簿に記入しまししょう。

栽培管理記録簿の記帳・提出は **J A米加算金 (300 円/60kg 個)** の要件になっています。

提出がない場合は、概算金から 300 円/60kg 個、減額した買い入れとなります。



## GAPチェック！



取組事項ごとに自分の農業生産の現状と比較し、「○△×」の三段階で自己点検しまししょう！！

- 「○」取組事項を実践している。
- 「△」取組事項を実践したが、効果が十分ではない。
- 「×」取組事項を実践していない。
- 「-」実践する必要がない。

No	取組内容	チェック日	チェック
1	農薬の使用方法・使用基準（使用量・収穫前日数・使用回数など）は守りましたか？ 農薬を使用した月日や散布量を農作業のあしあとに記録しまししょう。	月 日	
2	農薬散布前に、地域の方へ周知するなどし、生産者同士や地域の方々とのコミュニケーションはありましたか？ また農薬は、無風または風の弱い時間帯に散布を行いましたか？	月 日	
3	農薬を使用する場合は、保護衣（カッパ）、マスク、手袋などを着用しましたか？	月 日	
4	収穫前に、圃場内の異品種や異物の除去を行い、コンバインや乾燥機、籾摺り機などの点検や清掃は行いましたか？	月 日	

# 8月

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11 山の日	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

## 農作業のあしあと



※「農作業のあしあと」に記録した内容を、  
巻末の栽培管理記録簿へ記入しましょう。

No	作業内容	作業日(期間)	使用農薬・肥料名	使用量・散布量(10a 当たり)
1	畦畔の草刈り		—	—
2	中生の出穂期	月 日頃 (穂が全体の4~5割出た頃)		
	晩生の出穂期	月 日頃 (穂が全体の4~5割出た頃)		
3	穂 肥			Kg/10a
				Kg/10a
4	病虫害防除			/10a
				/10a
5	落水日(てんたかく)		—	—
6	湛水期間	月 日 ~ 日		

# 9月

## 美味しい高岡産米！！米づくりのラストスパート！！

### ●収穫適期のポイント●

コシヒカリ



刈り遅れによる胴割米が発生しないよう、適期に収穫を行いましょう。

- 籾の黄化率を十分に確認の上、適期に収穫を行いましょう。
- 籾の黄化率85～90%を目安に収穫しましょう。
- 早刈りは青未熟粒、刈り遅れは胴割粒の発生原因となります。

収穫前に籾の黄化率を確認してお！



品 種	出 穂 期	刈取時期
コシヒカリ	7月31日頃	9月6日～10日頃

※上記の刈取時期は、出穂期から予測される日付ですので、出穂以降の天候や圃場の条件等により変動します。出穂期や刈取適期は、「稲作管理情報」や担当営農指導員に確認しましょう。



収穫は地域の刈取標準田を参考にしてください。  
圃場によって刈取適期が異なりますので必ず黄化状況を確認しましょう。

#### 【注意事項】

- ① 大規模経営体や営農組織では、籾黄化率80%から刈取を開始し、刈り遅れのないよう計画を立てましょう。
- ② コンバインの故障や脱稈(だっぷ)の原因になりますので、収穫作業は朝露が落ちてから行いましょう。
- ③ 収穫した生籾は、ヤケ米防止のためにも4時間以内に通風乾燥しましょう。

### ●乾燥調製のポイント●

急激な乾燥は  
胴割粒の発生に  
つながります！

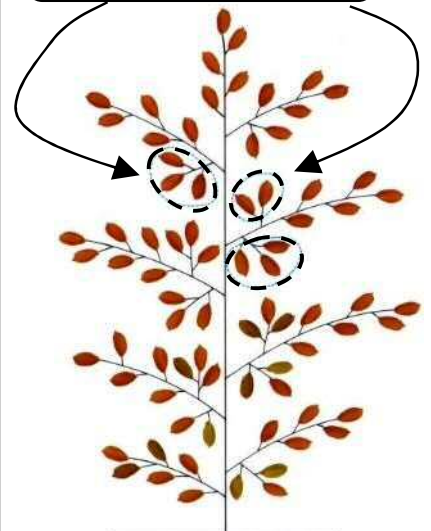
適正な乾燥・調製により品質の向上に努めましょう。



- 玄米水分は14.5～15.0%に仕上げましょう。
- 胴割粒の発生を防止するため、乾燥はゆっくりと行いましょう。
- 水分が17%以下になったら自動水分計に頼らず、手動水分計を用いてこまめに水分をチェックしましょう。
- 籾すり前には籾の水分と温度を確認しましょう。
- 肌ずれ米防止のため、籾の温度が常温になってから籾すりを行いましょう。
- 1.9ミリのふるい目を使用するとともに、機械の能力に見合った玄米流量を厳守しましょう。

#### 刈取適期の目安

網かけの2次枝梗籾が  
黄化した時が  
籾黄化率85～90%



### ●清掃・点検を徹底し事故を防ぎましょう●



お米は食品です。  
清掃や点検は必ずしましょう。

- コンバインや乾燥機の清掃を行い、異物や動物の死骸・糞などが混入しないようにしましょう。
- 施設内への野鳥等の侵入防止や清掃・選別の徹底により、異品種・異物混入を防止しましょう。
- 出荷米に籾の混入が散見されます。籾すり機のゴムロールは定期的に交換しましょう。

# 「ヒヤリ」・「ハッと」は事故の元！事故のない農作業に努めましょう！

## ●稲刈り作業で多発する事故●

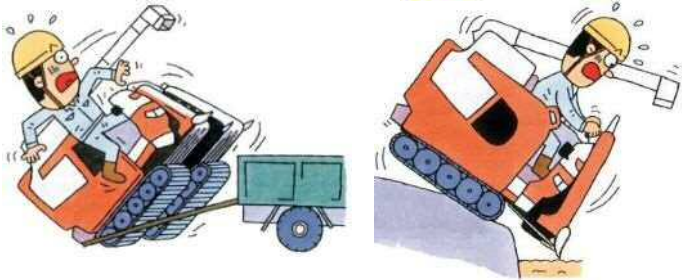


初心にかえって安全な農作業に努めましょう。

### 転倒・転落



### 油断大敵！



●あゆみ板でのトラックへの積み下ろしは、機械があゆみ板を踏み外し転落する恐れがあるため、慌てずゆっくりと行いましょう。

●あぜ越えをする時は、低速で、あぜに対して直角に進むようにしましょう。

●路肩が崩れやすいところや細い農道では、特に慎重に操作を行いましょう。

### 人や障害物との接触



### 周囲を確認しましょう

- コンバインは後方視界が悪いため、障害物や補助作業者にぶつかる恐れがあるため、旋回や方向転換の際は、周囲の安全確認を徹底して行いましょう。
- 共同作業や補助作業の位置を常に確認し、エンジン始動時やバックする際にはホーンやホイッスル等で合図するようにしましょう。

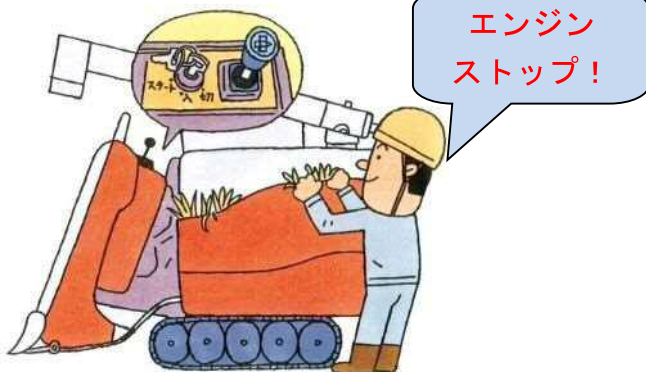


### 夕暮れ時の事故

- 周囲の状況が分かりにくく、思わぬトラブルを引き起こしますので、夕暮れ時には早めのライト点灯を行うようにしましょう。
- 作業の終わりが近づくと、疲れや集中力の低下により事故の発生率が高くなりますので、無理な作業は行わないようにしましょう。



### コンバインへの巻き込まれ



手を  
入れるな！

ヘルメットの着用

身体に合った服装

袖口スッカリ！

スッカリした裾

滑りにくい靴

- チェーンやカッターに詰まったワラを取り除く時は、必ずエンジンを切りましょう。
- 作業時の服装は腰タオルなど、巻き込まれやすいものは避け、袖口のボタンを締めるようにしましょう。
- 手こぎ作業時は、フィードチェーンへの巻き込まれに注意して作業を行うようにし、軍手などは使用しないようにしましょう。

## 米トレーサビリティ制度について



生産者の方だけでなく、JAを含む米の流通に関わる全ての事業者が、同様の取組みを行わなければならないこととなっています。

### ✓ 伝票を受領

- ①出荷申込書(受領書)の生産者控え
- ②米穀販売代金精算通知票

### ✓ 3年間保存

受領した伝票は3年間保存してください。

### ✓ 産地を伝達

「お米」を一般消費者に直接販売する際には、必ず産地を伝えてください。

用途限定米穀については、加工用米は **加**、米粉用米は **粉**、飼料用米は **飼** などと、記載が必要です。  
伝票等を保存していなかった場合には… **罰則規定(50万円以下の罰金)が適用**になります。



必要事項が記載された伝票などを、受領・保存(3年間)

必要事項が記載された伝票など

## GAPチェック!



取組事項ごとに自分の農業生産の現状と比較し、「O△×」の三段階で自己点検しましょう!!

- 「O」取組事項を実践している。
- 「△」取組事項を実践したが、効果が十分ではない。
- 「×」取組事項を実践していない。
- 「-」実践する必要がない。

No	取組内容	チェック日	チェック
1	死亡やけがに備えて、労災保険(労働者災害補償保険)等へ加入していますか?また、路上等で第三者を巻き込んだ事故(対人)や、機械等が破損(対物)した場合に備えた任意保険へ加入していますか?	月 日	
2	機種に応じた運転免許やナンバープレートは取得していますか?	月 日	
3	収穫前に、圃場内の異品種や異物の除去を行いましたか?	月 日	
4	コンバインや乾燥機、粃摺り機などの点検や清掃は行いましたか?また、常に清潔で衛生的な状態を保っていますか?	月 日	
5	刈取標準田や稲作情報などによる情報収集に努め、適期の刈取りや、適正な乾燥調製を行いましたか?	月 日	
		月 日	

# 9月

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21 敬老の日	22 国民の休日	23 秋分の日	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3

## 農作業のあしあと



※「農作業のあしあと」に記録した内容を、  
巻末の栽培管理記録簿へ記入しましょう。

No	作業内容	作業日(期間)	その他(作業圃場の地名地番など)
1	落水日 (コシヒカリ等)		
2	収穫日		
3	乾燥機の清掃		
4			
5			

### ●土づくり資材の継続的施用● 積極的にケイ酸質資材を施用しましょう。

ケイ酸は、葉や根を丈夫にして病気や倒伏に強い稲を作り、登熟を向上させます。  
 近年、酸性化した圃場が増加していますので、毎年継続してケイ酸質資材を施用しましょう。  
 ※土づくり資材名および施用量は3月のページ(P16)に記載されています。

### ●ごま葉枯病の発生について● カリ・鉄分・マンガンを補給しましょう

土壤に含まれる窒素・カリ・鉄分・マンガンが不足し、生育期後半に栄養凋落（秋落ち）となった場合、「ごま葉枯病」が発生する可能性があります。  
 秋落ちが見られた圃場では、カリ・鉄分・マンガンの補給に特化した「鉄田満太郎」をオススメします。



### ●緑肥作物の栽培● 土壤改良で保肥力の向上に努めましょう。

緑肥作物は、土壤を肥沃化する目的で栽培され、堆肥のように腐熟させずにすき込まれる作物です。  
 緑肥作物をすき込むことで、土壤の理化学性を改善し保肥力を向上させると共に、水稻に必要な微生物相を望ましい状態に持続しやすくなります。

主な緑肥作物の種類とすき込み分量等の例 (kg/10a)

分類	作物名	播種時期	窒素量	炭素量	播種量
マメ科	ヘアリーベッチ	稲刈り後～10月上旬	4～17	80～200	3～5
	レンゲ	稲刈り後～10月上旬	5～10	50～110	3～4
イネ科	エンバク	秋：9月下旬～10月中旬 春：3～5月	3～9	110～380	8～15

※上記の緑肥作物は、水稻作付後に播種し、越冬後にすき込む「冬作物」を紹介してあります。  
 ※大麦等の作付後に播種をする「夏作物」もあります。  
 ※栽培方法(播種方法・すき込み時期など)は、作物により異なりますので営農指導員へご相談ください。

### ●有機物の施用● 有機物で、腐植含量を高めましょう。

有機物は土中で分解が進み、腐植に変化します。腐植含有量の向上で以下の効果が見込まれます。  
 ① 浸透性・保水性・通気性が上がり、根張りが向上する。  
 ② 微生物が増加し、地力を高める。  
 ③ 養分の保持力が上がり、登熟歩合が高くなる。

有機物の施用目安 (kg/10a)

区分		乾田		半湿田・粘質田	
		秋施用	春施用	秋施用	春施用
牛ふん	施用量	1,000～2,000	1,000～2,000	1,000～1,500	1,000
	堆肥	基肥窒素減肥量	無	1～2	1～2
発酵	施用量	150	100	100	75
	鶏ふん	基肥窒素減肥量	無	0～1	0～1

### ●秋起こしの実施● 秋・春の2回耕起で作土深の拡大を図りましょう。

●土づくり資材の施用後、秋起こしをしましょう。土の中に空気を入れ、土を柔らかくします。  
 ●土壤と稲わら等が混和する程度に浅く起こしましょう。稲わらや籾がらにはケイ酸が多く含まれているので、焼却せず、圃場に均等に散らして確実にすきこみましょう。  
 ●秋起こし後は、腐熟を促進させるため、排水溝を掘って、水吐尻にしっかり連結し、排水を良くしましょう。



## よく使う除草剤の特徴を知ろう！



除草剤には、たくさんの種類があります。それぞれの特徴を理解することで、上手に除草剤を選択して散布することができます。そこで、除草剤の種類と、よく使われる除草剤「バスタ」・「ラウンドアップ」・「プリグロックスL」の特徴をそれぞれご紹介します。

### 除草剤の種類

除草剤には大きく分けて、「**茎葉処理剤**」と「**土壌処理剤**」の2種類があります。

**茎葉処理剤**とは…既に発生している雑草の茎や葉に散布することで薬剤が茎葉部から吸収されて雑草を枯らします。

**土壌処理剤**とは…雑草の発生前から発生初期に土壌表面に散布して雑草の発生を抑えます。

さらに、「**非選択性除草剤**」と「**選択性除草剤**」に分けることができます。

**非選択性除草剤**とは…薬剤がかかった雑草や作物は全て枯らします。

**選択性除草剤**とは…特定の作物以外の雑草や作物を枯らします。

### バスタ

- 「茎葉処理」除草剤で、「非選択性除草剤」です。
- 浸透移行性はほとんど無いので、散布場所の近隣の作物に飛散したとしても、薬剤がかかった部分が枯れるだけなので、影響は限定的です。
- 枯れるのは地上部のみで、根は枯らしません。(根が枯れないので畦畔が崩れません)
- 効果はやや早く発現し、やや長く持続します。



### ラウンドアップ マックスロード

- 「茎葉処理」除草剤で、「非選択性除草剤」です。
- 浸透移行性があり、茎葉に薬剤がかかると有効成分が浸透し、根まで枯らします。
- 散布後1時間が経過していれば、その後に雨が降っても効果を発揮します。
- 効果は遅く発現し、長く持続します。



### プリグロックスL

- 「茎葉処理」除草剤で、「非選択性除草剤」です。
- 浸透移行性は無く、薬剤がかかった部分のみ枯れます。近隣の作物に飛散したとしても、薬剤がかかった部分が枯れるだけなので、影響は限定的です。
- 枯れるのは地上部のみで、根は枯らしません。(根が枯れないので畦畔が崩れません)
- 効果は早く発現し、持続期間は短いです。
- 散布後15分が経過していれば、その後に雨が降っても効果を発揮します。
- 庭の苔への影響が少ないので、苔を育てている箇所で使用できます。
- 「種子発芽後枯殺効果」があり、イネ科植物体上の種子に付着した場合、成熟した種子がこぼれ落ちても、その種子の出芽を阻害する効果があります。
- **医薬用外毒物** に該当しますので、ご購入の際は印鑑が必要です。



※いずれも気象条件等のその他条件により、除草効果に差が出る場合があります。



# 10月

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
27	28	29	30	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 スポーツの日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

## 農作業のあしあと



※「農作業のあしあと」に記録した内容を、  
巻末の栽培管理記録簿へ記入しましょう。

No	作業内容	作業日(期間)	資材名	散布量	その他(作業圃場の地名地番など)
1	土づくり資材散布			Kg/10a	
				Kg/10a	
2	有機物の施用			Kg/10a	
				Kg/10a	
3	耕起		—	—	
			—	—	
4					
5					

近年、降雪が少ない年や、大雪になる年など、冬の気候に大きな差があります。

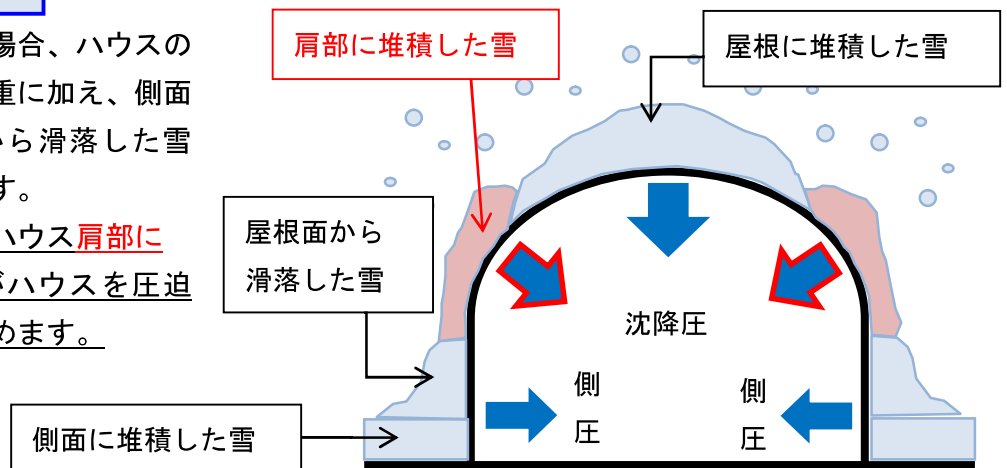
「今年の降雪は少ないだろう」と思い込み、育苗ハウスのビニールを張ったままにしておくと一晩のうち大雪になり、ハウスが倒壊する危険性があります。

ハウスが倒壊すると、来年の春からの育苗作業に大きな影響が出るため、ハウスの雪害対策を行い、育苗ハウスを倒壊から守ることが非常に重要です。

### ハウスが受ける力

雪が真下に降り積もる場合、ハウスの屋根に堆積する雪の荷重に加え、側面に堆積した雪や屋根から滑落した雪による側圧がかかります。

さらに積雪が進むと、ハウス肩部に堆積した雪の沈降圧がハウスを押し、倒壊の危険性を高めます。



### ハウスの雪害対策

- ・融雪型・耐雪型でないハウスは、積雪前にビニールをはずしておきましょう。
- ・屋根上の遮光・防風ネットは雪の滑落を阻害するので、速やかに除去しましょう。
- ・冬作として野菜等栽培しているハウスは、ハウス内に耐雪支柱等を設置し、補強しましょう。
- ・散水による融雪を行う場合には、事前に排水路の整備・清掃を行い、積雪前から散水を行いましょう。
- ・こまめにハウス横の除雪を行う。とくに連棟ハウスの場合はハウスの間に屋根面から滑落した雪が単棟ハウスより早い段階で増えるので注意しましょう。
- ・急激な積雪など、緊急時にはビニールを切ってハウスの倒壊を防止しましょう。
- ・タイバーを設置することでハウス自体の強度を高くしましょう。



### 作業時の安全対策

- ・作業は万が一に備え、複数人で行うようにしましょう。
- ・足場や高所からの転落に注意しましょう。
- ・落雪には十分注意し、ヘルメット等を着用しましょう。
- ・作業時には携帯電話を持ち歩き、常に連絡を取れるようにしておきましょう。

作業は安全第一で、慌てずに行いましょう！



その他ご不明な点は担当営農指導員にお問い合わせください。

# 11月

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
1	2	3 文化の日	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23 勤労感謝の日	24	25	26	27	28
29	30	1	2	3	4	5

# 12月

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

## 2027 1月

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
27	28	29	30	31	1 元日	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11 成人の日	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

## 2027 2月

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11 建国記念の日	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23 天皇誕生日	24	25	26	27
28						

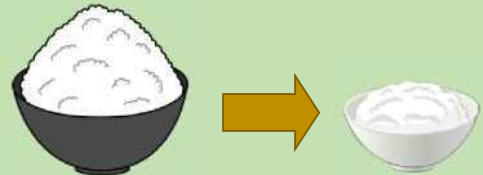
## 経営に合わせた継続的な生産調整の実施

### 継続的な生産調整で米価を維持

昨今の米の需要量は毎年約10万トずつ減少していると言われています。

具体的には、昭和37年は1人当たり118.3kgの米を消費していましたが、令和4年は50.8kgと半分以下になっている状況にあります。

消費量の拡大が一番望ましい形ではありますが、需給のバランスを保ち米価を維持するためにも、継続的な生産調整の実施が不可欠です。



### JA 高岡管内の転作率の推移

JA 高岡管内では国が示す需給見通しに基づき、県や市の農業再生協議会と農協等の生産者団体が中心となって、需給に応じた生産調整に取り組む形となっております。

直近5年間の推移は下記の通りになっています。

年度	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
作付率	58.36%	58.28%	58.86%	60.08%	63.42%
転作率	41.64%	41.72%	41.14%	39.92%	36.58%
前年比	-1.73%	-0.08%	0.58%	1.22%	3.34%

### 生産調整には色々な手法があります

農地を耕作放棄地にしてしまうと、農地としての復帰に時間がかかり、景観も悪くなります。

家族や地域で話し合い、農地を守る取り組みを行いましょう。

協力して米価を  
維持していこう！

### おすすめ作物一覧

- 園芸作物（野菜・花卉・果樹など）
- 大麦
- 大豆
- 加工用米・備蓄米・飼料用米
- そば・なたね
- 景観形成作物（レンゲなど）
- 地力増進作物（エン麦など）

※詳しくは担当営農指導員にご相談ください。



「高品質な高岡産大豆」を目指しましょう！

令和8年産

# 大豆栽培こよみ

高岡市農業協同組合  
富山県高岡農林振興センター

生育ステージ	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
	排水対策・土づくり	播種適期 発芽期	草丈・節数増加期	開花期	莢伸長期 子実肥大期	成熟期 収穫期	
作業名	排水対策	石灰質資材散布	種子消毒	耕起・砕土 施肥 播種	除草散布	1回目培土	2回目培土
チェック	排水対策	石灰質資材散布	種子消毒	1回目 培土	2回目 培土	1回目 防除	2回目 防除
	額縁排水溝 心土破碎	石灰質資材散布	種子消毒	耕起・砕土 施肥 播種	除草散布	1回目培土	2回目培土
	まず早めに排水対策	播種作業は慌てず、確実に！		1回目 本葉2~3葉 播種後20~25日	2回目 本葉4~5葉 播種後30~35日	1回目防除	2回目防除
	改良型	従来型		株元までしっかりと土をかける	晴天が3日以上続いたら入水 (開花期~9月上旬頃まで)	大豆に発生する主な病害虫	大豆に発生する主な病害虫
	お使いの播種機を確認してください！ 機種によりスプロケットの設定及び車速が異なります				うね間かん水で落莢を防止！	難防除雑草類は確実に除去	難防除雑草類は確実に除去
						大きな雑草や青立ち株を除去 タデ類・イヌホオズキ類等の	大きな雑草や青立ち株を除去 タデ類・イヌホオズキ類等の
						黄緑 黄 黄褐 褐色	黄緑 黄 黄褐 褐色
						収穫適期内での収穫完了	収穫適期内での収穫完了
						品種ごとに莢の色や子実水分を確認し、適期に収穫しましょう！	品種ごとに莢の色や子実水分を確認し、適期に収穫しましょう！
						収穫開始の目安	収穫開始の目安
						英の色	英の色
						株全体の9割以上が褐色 緑色の英が無い	株全体の9割以上が褐色 緑色の英が無い
						子実水分	子実水分
						エンレイ 22%から	エンレイ 22%から
						シュウレイ 20%から	シュウレイ 20%から

### 土づくり

◎ 大豆は中性に近い土壌を好むので、pHは6.0~6.5を目標に必ず石灰質資材を施用しましょう。

◎ 地力の低下と加里を補うため、発酵鶏ふんを施用しましょう。

【土づくり・基肥量の目安(10aあたり)】

資材名	単作	麦あと
苦土石灰	100~200 kg	
発酵鶏ふん	100~150 kg	
BB084 (10-18-24)		
砂壤土	20kg	35kg
壤土~埴壤土	15kg	30kg

※麦あと大豆は、麦稈の腐熟を促進させるため、基肥のチッソ成分を1.5~2kg増量してください。ただし、青立ち発生が懸念される場合は、増量しない。

### 種子消毒 (病害虫防除の徹底)

◎ 萎疫病などの苗立枯性病害やフタスジヒメハムシを防除するためクルーザーMAXXで種子消毒を行いましょう。

使用薬剤	処理方法
クルーザーMAXX	乾燥種子1kg当たり原液8mL塗抹

### 排水対策の徹底

◎ 額縁及び心土破碎等による排水性の改善

◎ 播種機の型式により、スプロケットの設定及び車速が異なるため注意

◎ 目皿とスプロケットの組合せを確認

◎ 品種に応じた目皿の使用

B-2 B-22 エンレイ (10.5mm) B-3 シュウレイ (12.0mm)

◎ 適正な播種深度(3cm程度)の徹底

◎ 品種・播種時期に応じた適正栽植本数の確実な確保

スプロケットの組合せを確認

◎ エンレイにおいて、播種機の調整等を行っても目標とする播種量が投下されない場合は目皿B-22を使用しましょう

**TDRG型(従来型) 車速 1.8~2.0km/h**

<エンレイ> 条間80cm、播種精度95%、苗立率90%、種子百粒重33.1g

目皿	播種時期	播種量	栽植本数 (本/n)	スプロケット	
				目皿側	車輪側
B-2	6月上旬	5.1~5.9	14~16	10~11	13
	6月中旬	5.9~6.6	16~18	9~10	14
B-22	6月上旬	5.1~5.9	14~16	14	9~10
	6月中旬	5.9~6.6	16~18	13	10

<シュウレイ> 条間80cm、播種精度95%、苗立率90%、種子百粒重33.1g

目皿	播種時期	播種量	栽植本数 (本/n)	スプロケット	
				目皿側	車輪側
B-3	6月上旬	4.4~5.5	12~15	10~11	11
	6月中旬	5.5~6.6	15~18	11	13
				10	13~14
				9	14

### 雑草対策

イヌホオズキ類はプロールプラス、ラクサー、エコトップが効果的です。帰化アサガオ類はサターンハアロが効果的です。

薬剤名	10a当りの散布量	使用方法	散布時期
ラクサー粒剤	4~8 kg	全面土壌散布	は種後出芽前 (雑草発生前)
エコトップP乳剤	400~600mL 水100Lで希釈		
サターンハアロ粒剤	4~6 kg		
トレファノサイド粒剤2.5	4~6 kg		は種後出芽前
パワーガイザー液剤	200~300mL 水100Lで希釈	雑草茎葉散布 全面土壌散布	出芽前~大豆3葉期まで (雑草発生始期~2葉期)
大豆バサグラン液剤	100~150mL 水100Lで希釈	雑草茎葉散布	大豆2葉期~開花前まで
	300~500mL 水100Lで希釈	又は全面散布	収穫45日前まで
ポルトフロアブル	200~300mL 水100Lで希釈	畦間雑草 茎葉散布	雑草生育初期~6葉期 収穫45日前まで
	300~500mL 水100Lで希釈	雑草茎葉散布 又は全面散布	イネ科雑草3~10葉期 収穫30日前まで
バスタ液剤	300~500mL 水100~150Lで希釈	畦間処理 株間処理	雑草生育期 (株間処理は大豆5葉期以降) 収穫28日前まで

\* 播種後の降雨で除草剤散布前に出芽した場合は、パワーガイザーを使用しましょう。

### 病害虫防除

2回目の基本防除は1回目の14日後頃に確実に防除しましょう

基本防除	回数	薬剤名	管理機体系	無人航空機体系	防除時期	対象病害虫
基本防除	1回目	ダントツフロアブル	2500倍 (100L/10a)	24倍 (0.8L/10a)	8月6~15日頃 (開花後2~4週間頃)	カメムシ類など
		フセキフロアブル	3000~4000倍 (100L/10a)	24~32倍 (0.8L/10a)		紫斑病
	2回目	アミスタートレボンSE	1000倍 (100L/10a)	8倍 (0.8L/10a)	8月20~29日頃	紫斑病+カメムシ類



## マメ知識① 「イネ」と「ノビエ」の違いと見分け方

穂がつく前に見分けるのは困難な「イネ」と「ヒエ」。しかし、よく見ると異なる点があります。まず、イネには、葉身と葉鞘の境目に葉耳という毛が生えていますが、ヒエにはありません。また、この境目にはイネでは葉舌という膜状の突起があり、ヒエにはありません。

生えているのが「イネ」なのか「ヒエ」なのかを早期に判断し、適切な除草剤を散布することで、除草効果が高まります。わからないまま放置して「ヒエ」が大きくなってしまえば除草剤では枯らすことが困難になります。

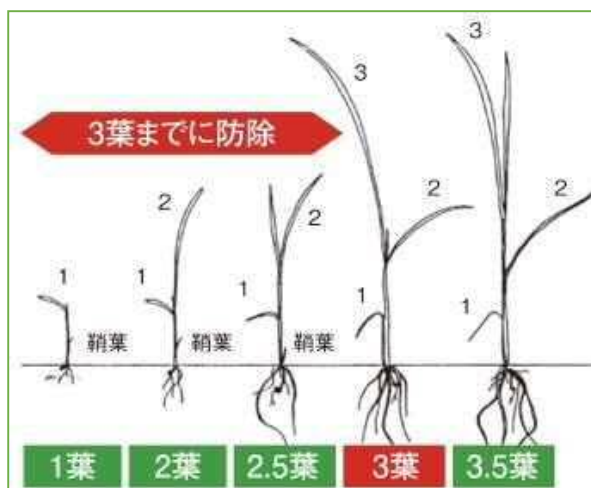
「イネ」と「ヒエ」の違いを認識し、手遅れにならないようにしましょう。










## マメ知識② ノビエの葉齢の数え方

水稲除草剤では、散布時期を「ノビエ 2.5 葉期」など、主にノビエの葉齢で標記されることが多くあります。除草剤は散布のタイミングを間違えると高い効果を得られません。発生している「ヒエ」がどれだけの葉齢なのかを見分けることで、適切な除草剤を散布することができます。

特にノビエは3葉期を過ぎると、除草剤で防除しにくくなりますので、3葉期までに防除していただくことが大切です。



## マメ知識③ 米の主な被害粒とその要因

用語	米の様子	説明	発生要因
胴割粒		粒平面に横 1 条の亀裂がすっきり通っているもの。粒平面に完全に通っていない亀裂が横 2 条、他の粒平面から見て発生部位の異なる亀裂が横 2 条あるものなど。	出穂後 10 日間の気温が高いほど発生が多くなる。また、刈取り目の早期落水や刈り遅れによって発生する。
乳白粒		胚乳部の横断面に白色不透明な部分がリング状となっているもの。なお、その白色不透明な部分の大きさが粒平面の 2 分の 1 以上のもの。	日照不足や過剰籾数で発生が多くなる。その他、出穂後 10 日～20 日頃の高温でも発生が多くなる。
心白粒		胚乳部の横断面に白色不透明な部分が平板状又は紡錘状となっているもの。心白粒は、中心部に白色不透明な部分のあるもので、その白色不透明な部分の大きさが粒平面の 2 分の 1 以上のもの。	
青未熟粒		粒表面に葉緑素が残り緑色を呈しているもの。	過剰籾数や倒伏などで登熟が遅れた場合に多く発生する。
基部未熟粒		基部の白色不透明な部分の大きさが、その粒長の 5 分の 1 以上のもの。	登熟期間の高温により栄養凋落し発生が多くなる。また、登熟期に稲の活力が低下した場合に多発する。
腹白未熟粒		腹部の白色不透明な部分の大きさが、その粒長の 3 分の 2 以上でかつ、粒幅の 3 分の 1 以上のもの。	
背白粒		背部の白色不透明な部分の大きさが、その粒長の 3 分の 2 以上でかつ、粒幅の 3 分の 1 以上のもの。	登熟初期から盛期の高温で発生が多くなる。また、登熟期に稲の活力が低下した場合に多発する。

### 主な原因はいずれも登熟期の高温と生育後期の栄養不足！

近年は登熟期の高温やフェーン現象により、米の品質が低下することが増えてきています。「営農記録ノート」や「稲作管理情報」などを今一度確認し、適正な水管理・適量の追肥を実施することで、品質低下のリスクを低減させましょう。

また、富山県が開発した品種「**富富富**」はコシヒカリに比べて高温登熟や倒伏に強いとされています。「**富富富**」は近年の高温条件でも高い 1 等米比率を確保しています。気になる方は高岡農林振興センター又は地区担当営農指導員までお問い合わせください。



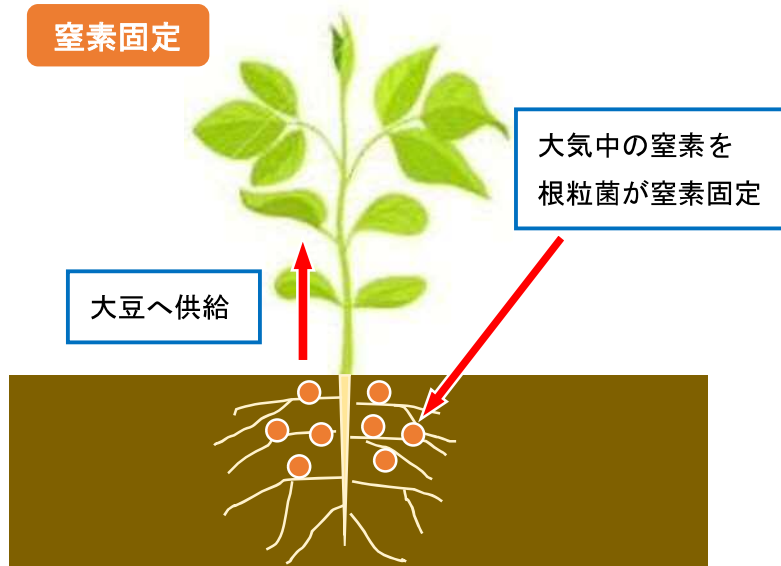
## マメ知識④ 根粒菌の窒素固定

大豆の根っこには、根粒と呼ばれる数ミリ程の粒のようなものがくっついていて、この中には根粒菌という土壌微生物が住んでいます。

根粒菌は大気中の窒素をアンモニアに変換し、植物の生育に必要な窒素を大豆に供給する働きをしています。この働きを「窒素固定」と言います。

大豆に限らず、その他のマメ科植物にも見られるので、気になったら確認してみてもいいかもしれません。

### 窒素固定



実際の写真

## マメ知識⑤ 大麦の赤かび病について

大麦の栽培において、赤かび病の発生を防ぐことは非常に重要です。

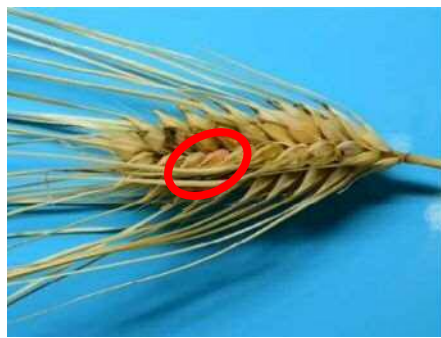
赤かび病は主に穂に発生し、穂の一部あるいは全部が褐色となり、病斑部には桃色のカビが見られる。六条大麦では、アントシアンによる赤色粒が発生することがあり、一見すると見分けが付きにくいですが、赤かび病の場合は、表面が粉状で光沢がありません。

赤かび病は有害な毒「マイコトキシン」を生成するため、農産物検査においては混入しないことと定められています。そのため、適期防除を徹底し、良質な大麦の生産に努めましょう。

### 実際の被害の写真



被害粒



○防除薬剤については、P54. P55 の大麦栽培ごよみをご覧ください。

○発生が疑われる場合は、高岡農林振興センターまたは地区担当指導員までお問い合わせください。

# 令和 8 年産米 栽培管理記録簿 (記入例)

住 所	富山県高岡市 あわら町 1-1
生産者名	高岡 太郎

品 種 名	コシヒカリ
GAPの実施	<input checked="" type="checkbox"/>

## 栽培圃場一覧

No.	地名地番	面 積	No.	地名地番	面 積
1	あわら町 ○○○	30 a	7		a
2	あわら町 ○×△	30 a	8		a
3	あわら町 △□	30 a	9		a
4	あわら町 ○×	10 a	10		a
5		a	11		a
6		a	12		a
合計					100 a

栽培圃場一覧に書ききれない場合は、別途圃場一覧を添付して下さい。

作業機械メンテナンス (清掃・オイル交換等)	3月 10日 / 4月 26日 / 5月 15日 / 8月 10日 / 9月 10日 9月 25日 / 月 日 / 月 日 / 月 日 / 月 日
---------------------------	--

秋耕起・春耕起	代 か き	田 植 え	中 干 し	出 穂 期
10月 15日~10月 20日 4月 15日~4月 16日	5月 6日~5月 7日	5月 13日~5月 15日	6月 13日~6月 25日	8月 2日~8月 4日
種子・苗購入先	【未消毒種子】 <input type="checkbox"/> JA <input type="checkbox"/> その他( ) 【消毒済種子】 <input checked="" type="checkbox"/> JA <input type="checkbox"/> その他( ) 【発 芽 苗】 <input type="checkbox"/> JA <input type="checkbox"/> その他( ) 【完 成 苗】 <input type="checkbox"/> JA <input type="checkbox"/> その他( )			

区 分	資 材 名	施用月日	施 用 量
土 づ く り	<input checked="" type="checkbox"/> 有機加里入りシリカロマン2号 <input type="checkbox"/> 砂状ケイカル <input type="checkbox"/> 鉄田満太郎 <input type="checkbox"/> その他( )	10月 15日~ 日	80 kg/10a
		月 日~ 日	kg/10a
育 苗 期	種子消毒 <input type="checkbox"/> テクリードCフロアブル	月 日~ 日	200 倍液 24 時間浸漬
	苗箱消毒 <input checked="" type="checkbox"/> イチバン	4月 20日~ 日	500~1000 倍液 瞬間浸漬
	播 種 時 <input checked="" type="checkbox"/> ナエファインフロアブル <input type="checkbox"/> カスミン液剤 <input type="checkbox"/> カスミン粒剤 <input type="checkbox"/> その他( )	4月 25日~ 日 月 日~ 日	500 倍液 500 ml/箱 g/箱
	苗 病 害 <input type="checkbox"/> ①チカレエスM粉剤 <input type="checkbox"/> ③ナエファインフロアブル <input type="checkbox"/> ②チカレエスM液剤 <input type="checkbox"/> その他( )	月 日~ 日	①置床 50g/m <sup>2</sup> ② 500 倍液 500ml/箱 ③1000 倍液 500ml/箱
田 植 え	<input checked="" type="checkbox"/> Cs. オリゼリディアEV箱粒剤 <input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> スタウトアレスモンガレス箱粒剤	5月 13日~15日	50g/箱

※圃場ごとに使用農薬等が異なる場合は、複数枚に記入し栽培圃場一覧に地名地番・面積を記入して下さい。

区 分		資 材 名		施用月日	施 用 量
施 肥	基 肥	<input type="checkbox"/> 基肥 555 <input type="checkbox"/> LP555-1号 <input type="checkbox"/> エコ早生専用 <input checked="" type="checkbox"/> Jコートコヒカリ1号 <input type="checkbox"/> Jコートコヒカリ2号	<input type="checkbox"/> Jコート豆あとコヒカリ <input type="checkbox"/> LP s s 晩生専用 <input type="checkbox"/> 鉄コート直播コヒカリ <input type="checkbox"/> その他 ( )	5月13日~15日	30 kg/10a
	早期追肥	<input type="checkbox"/> 基肥 555	<input type="checkbox"/> その他 ( )	月 日~ 日	kg/10a
	中間追肥	<input type="checkbox"/> エスアイ加里らくだ	<input type="checkbox"/> その他 ( )	月 日~ 日	kg/10a
	つなぎ肥	<input type="checkbox"/> 化成8号	<input type="checkbox"/> その他 ( )	月 日~ 日	kg/10a
	穂 肥	<input checked="" type="checkbox"/> 追肥3号	<input type="checkbox"/> その他 ( )	8月1日~2日 月 日~ 日 月 日~ 日	5 kg/10a kg/10a kg/10a
除 草 剤	一 発	<input type="checkbox"/> ベッカク1キロ粒剤 <input type="checkbox"/> ゼータジャガー1キロ粒剤 <input type="checkbox"/> ゴウワンDL ジャンボ	<input type="checkbox"/> ベッカク豆つぶ250 <input type="checkbox"/> その他 ( )	月 日~ 日	/10a
	初 期	<input checked="" type="checkbox"/> スラッシュャ1キロ粒剤 <input type="checkbox"/> ラオウ1キロ粒剤 <input type="checkbox"/> ワザアリ楽粒	<input type="checkbox"/> アルタイフフロアブル <input type="checkbox"/> その他 ( )	5月13日~15日	1kg /10a
	中 期	<input checked="" type="checkbox"/> ザーベックスDX1キロ粒剤 <input type="checkbox"/> アクシズMX1キロ粒剤	<input type="checkbox"/> ノックアウト楽粒 <input type="checkbox"/> その他 ( )	6月2日~5日	1kg /10a
	随 時	<input type="checkbox"/> トドメMF1キロ粒剤 <input type="checkbox"/> ヒエクリーン1キロ粒剤 <input type="checkbox"/> クリンチャージャンボ <input type="checkbox"/> レブラス1キロ粒剤 <input type="checkbox"/> ワイドパワー粒剤 <input type="checkbox"/> テッケンジャンボ	<input type="checkbox"/> ツイゲキ豆粒250 <input type="checkbox"/> トドメバスMF液剤 <input type="checkbox"/> ロイヤント乳剤 <input type="checkbox"/> バイスコープ1キロ粒剤 <input type="checkbox"/> バサグラン粒剤 <input type="checkbox"/> その他 ( )	月 日~ 日 月 日~ 日	/10a /10a
本 田 防 除	粉 剤	<input checked="" type="checkbox"/> ビームモンカッタースタークルF粉剤5DL		8月3日~6日	4 kg/10a
		<input checked="" type="checkbox"/> キラップ粉剤DL		8月10日~13日	4 kg/10a
	粒剤・豆つぶ	<input type="checkbox"/> イモチエスタークル粒剤	<input type="checkbox"/> ワイドパンチ豆つぶ	月 日~ 日	kg/10a
	液 剤	<input type="checkbox"/> ビームエイトスタークルゾル	<input type="checkbox"/> その他 ( )	月 日~ 日	倍液 ℓ/10a
		<input type="checkbox"/> モンカッターフロアブル	<input type="checkbox"/> その他 ( )	月 日~ 日	倍液 ℓ/10a
		<input type="checkbox"/> キラップフロアブル	<input type="checkbox"/> その他 ( )	月 日~ 日	倍液 ℓ/10a
ラジヘリ委託先	<input type="checkbox"/> JA ※施用月日・施用量は記入不要です。	<input type="checkbox"/> その他 ( )	月 日~ 日	/10a	
そ の 他			月 日~ 日	/10a	
収 穫 期	刈取り予定日 ( 9月14日~20日)	乾燥調製	<input type="checkbox"/> 自己乾燥 <input checked="" type="checkbox"/> JA施設 <input type="checkbox"/> その他 ( )		

※ 上記資材以外を使用の場合は、空欄に商品名を記入して下さい。

※ 圃場ごとに使用農薬等が異なる場合は、複数枚に記入し栽培圃場一覧に地名地番・面積を記入して下さい。

JA確認欄
月 日

# 令和8年産米 栽培管理記録簿（提出用）

住 所	富山県高岡市
生産者名	

品 種 名	
GAPの実施	<input type="checkbox"/>

## 栽培圃場一覧

No.	地名地番	面積	No.	地名地番	面積	
1		a	7		a	
2		a	8		a	
3		a	9		a	
4		a	10		a	
5		a	11		a	
6		a	12		a	
栽培圃場一覧に書ききれない場合は、別途圃場一覧を添付して下さい。					合計	a

作業機械メンテナンス (清掃・オイル交換等)	月 日 / 月 日 / 月 日 / 月 日 / 月 日
	月 日 / 月 日 / 月 日 / 月 日 / 月 日

秋耕起・春耕起	代 か き	田 植 え	中 干 し	出 穂 期
月 日～ 月 日 月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日
種子・苗購入先	【未消毒種子】 <input type="checkbox"/> JA <input type="checkbox"/> その他( ) 【消毒済種子】 <input type="checkbox"/> JA <input type="checkbox"/> その他( )			
	【発芽苗】 <input type="checkbox"/> JA <input type="checkbox"/> その他( ) 【完成苗】 <input type="checkbox"/> JA <input type="checkbox"/> その他( )			

区 分	資 材 名	施用月日	施 用 量
土 づ く り	<input type="checkbox"/> 有機加里入りシリカロマン2号 <input type="checkbox"/> 砂状ケイカル	月 日～ 日	kg/10a
	<input type="checkbox"/> 鉄田満太郎 <input type="checkbox"/> その他( )	月 日～ 日	kg/10a
育 苗 期	種子消毒 <input type="checkbox"/> テクリードCフロアブル 月 日～ 日	月 日～ 日	200 倍液 24 時間浸漬
	苗箱消毒 <input type="checkbox"/> イチバン 月 日～ 日	月 日～ 日	500～1000 倍液 瞬間浸漬
	播種時 <input type="checkbox"/> ナエファインフロアブル 月 日～ 日	月 日～ 日	倍液 ml/箱
	<input type="checkbox"/> カスミン粒剤 月 日～ 日	月 日～ 日	g/箱
苗 病 害	<input type="checkbox"/> ①チカレエSM粉剤 <input type="checkbox"/> ③ナエファインフロアブル	月 日～ 日	①置床 50g/m <sup>2</sup> ② 500 倍液 500ml/箱 ③1000 倍液 500ml/箱
	<input type="checkbox"/> ②チカレエSM液剤 <input type="checkbox"/> その他( )		
田 植 え	<input type="checkbox"/> Cs. オリゼリディアEV箱粒剤 月 日～ 日	月 日～ 日	50g/箱
	<input type="checkbox"/> スタウトアレスモンガレス箱粒剤		

※圃場ごとに使用農薬等が異なる場合は、複数枚に記入し栽培圃場一覧に地名地番・面積を記入して下さい。

区 分		資 材 名		施用月日	施 用 量
施 肥	基 肥	<input type="checkbox"/> 基肥 555	<input type="checkbox"/> Jコート豆あとコヒカリ	月 日～ 日	kg/10a
		<input type="checkbox"/> LP555-1号	<input type="checkbox"/> LP s s 晩生専用		
	<input type="checkbox"/> エコ早生専用	<input type="checkbox"/> 鉄コート直播コヒカリ	月 日～ 日	kg/10a	
	<input type="checkbox"/> Jコートコヒカリ 1号	<input type="checkbox"/> その他 ( )			
	<input type="checkbox"/> Jコートコヒカリ 2号		月 日～ 日	kg/10a	
早期追肥	<input type="checkbox"/> 基肥 555	<input type="checkbox"/> その他 ( )			kg/10a
中間追肥	<input type="checkbox"/> エスアイ加里らくだ	<input type="checkbox"/> その他 ( )	月 日～ 日	kg/10a	
つなぎ肥	<input type="checkbox"/> 化成 8号	<input type="checkbox"/> その他 ( )	月 日～ 日	kg/10a	
穂 肥	<input type="checkbox"/> 追肥 3号	<input type="checkbox"/> その他 ( )	月 日～ 日	kg/10a	
			月 日～ 日	kg/10a	
			月 日～ 日	kg/10a	
除 草 剤	一 発	<input type="checkbox"/> ベッカク 1キロ粒剤	<input type="checkbox"/> ベッカク豆つぶ 250	月 日～ 日	/10a
		<input type="checkbox"/> ゼータジャガー1キロ粒剤	<input type="checkbox"/> その他 ( )		
	初 期	<input type="checkbox"/> スラッシュャ 1キロ粒剤	<input type="checkbox"/> アルマイフ <sup>®</sup> フロアブル	月 日～ 日	/10a
		<input type="checkbox"/> ラオウ 1キロ粒剤	<input type="checkbox"/> その他 ( )		
	中 期	<input type="checkbox"/> ザーベックス DX1 粒剤	<input type="checkbox"/> ノックアウト薬粒	月 日～ 日	/10a
		<input type="checkbox"/> アクシズMX1 粒剤	<input type="checkbox"/> その他 ( )		
随 時	<input type="checkbox"/> トドメMF1 粒剤	<input type="checkbox"/> ツイゲキ豆粒 250	月 日～ 日	/10a	
	<input type="checkbox"/> ヒエクリーン 1キロ粒剤	<input type="checkbox"/> トドメバスMF液剤			
	<input type="checkbox"/> クリンチャージャンボ	<input type="checkbox"/> ロイヤント乳剤	月 日～ 日	/10a	
	<input type="checkbox"/> レプラス 1キロ粒剤	<input type="checkbox"/> バイスコープ 1キロ粒剤			
<input type="checkbox"/> ワイドパワー粒剤	<input type="checkbox"/> バサグラン粒剤	月 日～ 日	/10a		
<input type="checkbox"/> テッケンジャンボ	<input type="checkbox"/> その他 ( )				
本 田 防 除	粉 剤	<input type="checkbox"/> ビームモンカッタースタークル F 粉剤 5DL		月 日～ 日	kg/10a
		<input type="checkbox"/> キラップ粉剤DL		月 日～ 日	kg/10a
	粒剤・豆つぶ	<input type="checkbox"/> イモチエーススタークル粒剤	<input type="checkbox"/> ワイドパンチ豆つぶ	月 日～ 日	kg/10a
	液 剤	<input type="checkbox"/> ビームエイトスタークル <sup>®</sup> ブル		月 日～ 日	倍液 ℓ/10a
		<input type="checkbox"/> モンカッターフロアブル		月 日～ 日	倍液 ℓ/10a
		<input type="checkbox"/> キラップ <sup>®</sup> フロアブル		月 日～ 日	倍液 ℓ/10a
	ラジヘリ 委 託 先	<input type="checkbox"/> JA	<input type="checkbox"/> その他 ( )	月 日～ 日	/10a
そ の 他	※施用月日・施用量は記入不要です。		月 日～ 日	/10a	
収 穫 期	刈取り予定日 ( 月 日～ 日)		乾燥調製	<input type="checkbox"/> 自己乾燥 <input type="checkbox"/> JA施設 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

※ 上記資材以外を使用の場合は、空欄に商品名を記入して下さい。

※ 圃場ごとに使用農薬等が異なる場合は、複数枚に記入し栽培圃場一覧に地名地番・面積を記入して下さい。

JA 確認欄
月 日

## JA高岡関係機関 事業所別電話番号一覧表 (営農関係)

事業所名		TEL・FAX	事業所名		TEL・FAX
JA高岡営農センター	農業振興課	TEL 63-7331 FAX 63-3872	南条カントリーエレベーター	TEL 31-4321 FAX 31-4201	
	(生産資材)	TEL 50-9005 FAX 27-8891	国吉カントリーエレベーター	TEL 27-3077 FAX 27-3078	
	農産物販売課	TEL 63-7334	中田カントリーエレベーター	TEL 36-0044 FAX 36-1404	
	高岡市農業再生協議会	TEL 63-7332	戸出カントリーエレベーター	TEL 63-6934 FAX 63-1951	
資材センター佐野	TEL 27-8601 FAX 27-8661	堆肥センター	TEL/FAX 27-3072		
資材センター国吉	TEL 31-8005 FAX 31-8006	農機センター	TEL 63-3030		
資材センター戸出	TEL 63-5555 FAX 63-3893	農産物直売所 めぐりつち	佐野店	TEL 22-0230	
(株)JAアグリネット高岡	TEL 36-0036 FAX 36-0036		戸出店	TEL 63-0107	
			矢田店	TEL 44-6504	
中田農業振興センター	TEL 36-0022 FAX 36-0039	高岡農林振興センター	TEL 26-8477		

お問い合わせ ▶ 個人情報保護方針 ▶ サイトマップ

JA高岡 **HOME** 文字サイズ 小 中 大

 営農
  金融・共済
  経済
  事業所の所在地
  介護・福祉

ホーム > 営農情報

### 営農情報

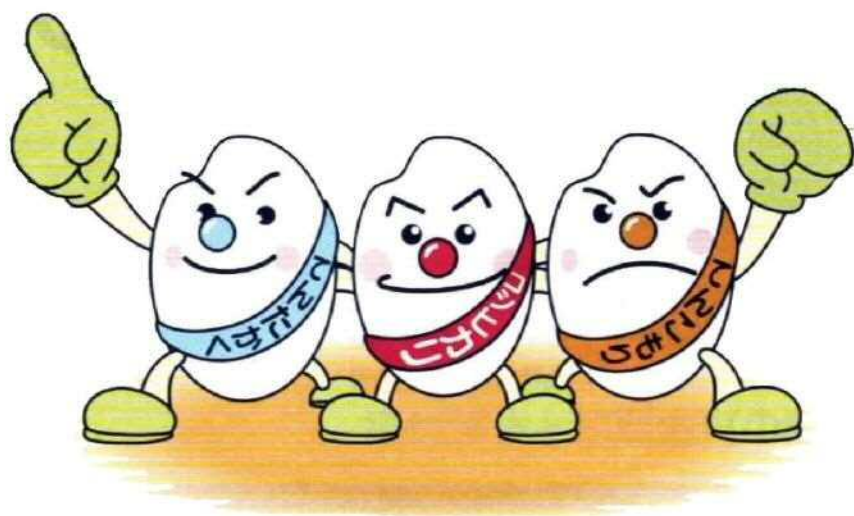
営農センター (JA高岡 農業振興課)

営農指導員携帯番号はこちら  
[http://www.ja-takaoka.or.jp/einou/einou\\_note.html](http://www.ja-takaoka.or.jp/einou/einou_note.html)

新着情報 一覧

2021/10/01	稲作管理情報 水稲・直播・富富富 <b>new</b>	
2021/09/07	大麦・小麦管理情報	
2021/10/11	大豆管理情報 <b>new</b>	
2020/04/21	園芸管理情報 野菜・花卉	
2021/04/21	営農ノート・営農指導員等携帯電話番号	





## 営農記録ノート ～農作業のあしあと～

令和8年1月作成



JA高岡



こちらから営農情報をご覧頂けます

<http://www.ja-takaoka.or.jp/einou/>

JA高岡営農

検索

